

九州大学の学生を対象とした

「学習実態に関する緊急調査」 報告書

九州大学 教育改革推進本部

2018年4月

目次

| | |
|--|----|
| はじめに | 3 |
| 第1章 調査の概要・回答状況等..... | 5 |
| 第1節 調査の概要..... | 5 |
| 第2節 回収状況 (Q1~6) | 5 |
| 第2章 進学理由・希望進路・経済状況等 | 8 |
| 第1節 大学進学の主たる理由 (Q7) | 8 |
| 第2節 現在所属している学科・専攻等への進学は第一志望か (Q8) | 8 |
| 第3節 希望進路 (Q9) | 9 |
| 第4節 希望職業 (Q10) | 9 |
| 第5節 将来の夢や目標は具体的に決まっているか (Q11) | 10 |
| 第6節 最も得意な外国語の運用能力 (Q12) | 10 |
| 第7節 経済状況 (Q13) | 11 |
| 第3章 学びの姿勢や大学教育に関する見方 (Q14) | 12 |
| 第4章 授業や論文指導の際に教員に期待すること (Q15) | 14 |
| 第5章 各種制度の活用やカリキュラム・学習環境等への評価 | 16 |
| 第1節 ルーブリックの意識度 (Q16) | 16 |
| 第2節 カリキュラム・マップの活用度 (Q17) | 18 |
| 第3節 科目ナンバリングの活用度 (Q18) | 18 |
| 第4節 GPA 制度は学業に励むことへの動機づけになっているか (Q19) | 19 |
| 第5節 GPA 低下が嫌なので難しそうな授業の履修を避けているか (Q20) | 22 |
| 第6節 シラバスの活用度 (Q21) | 23 |
| 第6章 授業や先生に対する評価..... | 24 |
| 第1節 各種授業や先生の割合 (Q22) | 24 |
| 第1項 授業の内容や目標等の情報が適切に掲載されているシラバスの割合 | 24 |
| 第2項 シラバスやルーブリックで事前に示された基準に沿って成績評価している授業の割合 | 25 |
| 第3項 難しくついていくのが大変な授業の割合 | 25 |
| 第4項 学生が積極的に参加しなければならない対話型の授業の割合 | 26 |
| 第5項 教員から適切な頻度でフィードバックが行われる授業の割合 | 26 |
| 第6項 教え方が上手だと思う先生の割合..... | 27 |
| 第2節 カリキュラムや学習環境 (Q23) | 27 |
| 第3節 4学期制 (8週完結型) の授業のメリット・デメリット (Q24) | 30 |
| 第7章 教養教育、専門教育、教育全体に関する評価..... | 34 |
| 第1節 教育に関する評価 (Q25) | 34 |

| | | |
|------|--|----|
| 第2節 | 教育について良く評価している点 (Q26) | 35 |
| 第3節 | 教育について悪く評価している点 (Q27) | 37 |
| 第8章 | 学習等の活動に費やす時間 | 40 |
| 第1節 | 各種時間の使い方の分布状況 (1週間当たり) | 40 |
| 第1項 | 授業や (授業としての) 実験に出席している時間 (Q28) | 40 |
| 第2項 | 授業・実験の準備や予習・復習に充てている時間 (Q29) | 41 |
| 第3項 | 研究 (学位論文の執筆やそのための資料収集、実験等) に充てている時間 (Q30) | 41 |
| 第4項 | (大学での授業や研究とは直接関係ない) 自主的な学習に充てている時間 (Q31) | 42 |
| 第5項 | 課外活動に充てている時間 (Q32) | 42 |
| 第6項 | アルバイトに充てている時間 (Q33) | 43 |
| 第7項 | 睡眠に充てている時間 (Q34) | 43 |
| 第8項 | 通学 (往復) に充てている時間 (Q35) | 44 |
| 第9項 | 夏休み・冬休み・春休み中に研究 (学位論文の執筆やそのための資料収集、実験等) に充てている時間 (Q36) | 45 |
| 第10項 | 第9項 夏休み・冬休み・春休み中に (大学での授業や研究とは直接関係ない) 自主的な学習に充てている時間 (Q37) | 45 |
| 第2節 | 経済状況別の学習時間等 | 46 |
| 第9章 | アクティブ・ラーナーになることを妨げている原因 (Q38) | 48 |
| 第1節 | 学士課程の回答傾向 | 48 |
| 第2節 | 修士課程の回答傾向 | 49 |
| 第3節 | 博士課程の回答傾向 | 50 |
| 添付資料 | 調査票 (Moodle 上のアンケートフォーム) | 52 |

はじめに

本報告書は、九州大学の教育及び学習の実態を把握するために、平成 29 (2017) 年 11 月から 12 月にかけてウェブ上で実施された「教育・学習実態に関する緊急調査」のうち、全学の学生を対象とした「学習実態に関する緊急調査」の集計結果です。

周知のとおり、九州大学では「アクティブ・ラーナー」(学び続けることを幹に持つ、未知な問題や状況にも果敢に挑戦するスピリットと行動力を備えた人)の育成に取り組んでいます。しかしながら、「平成 27 年度九州大学学生生活実態調査」によると、「大学の授業時間以外に、大学の授業内容の予習復習に費やしている時間」が「試験前以外にほとんどない」と回答した学生が学部・大学院ともに約 4 割に上り、約 8 割の学生は「1 日 1 時間程度」以下の時間しか費やしていませんでした。もちろん、実際には学生は予習復習以外にも様々な学習(研究や、授業と直接関係ない自主的な学習など)を行っていますし、学習時間がただ長ければよいわけではありません。それでも、少なくとも一部の学生が学習に積極的に取り組めていないことを、上記のデータは物語っていると考えられます。

平成 29 年度の九州大学学生モニター会議¹は、「なぜ学生の学習時間は短いのか？」をテーマに学生目線から議論し、その結果を教育担当理事に報告しました。彼らの報告は、9 月の教育企画委員会でも共有・報告されました²。12 月 26 日には、平成 29 年度第 5 回全学 FD として、この貴重な報告のさらなる全学的共有が図られました。全学 FD 当日は、「学習実態に関する緊急調査」の暫定的な集計結果として、以下のような実態が報告されました。

- ・経済的に厳しい学生は、そうでない学生よりも(アルバイトだけでなく)授業外の学習時間が長い。
- ・学部 1 年生の過半数は、GPA の低下を嫌い難しそうな授業の履修を避けている。
- ・専攻する学問への興味関心が弱く、将来との関連もあまり意識できず、学習姿勢も消極的な学生は、男子学生に多い。専攻する学問への興味関心が強く、将来との関連を意識でき、学習姿勢も積極的な学生は、女子学生に多い。

本報告書は、全学 FD 当日の限られた時間では提示しきれなかった様々な集計結果を掲

¹ 「教育、学生生活支援及び就職支援等に関する取り組みを実施するに当たり、本学の学生から意見や提案等を聴取する」(「九州大学学生モニター制度要項」)ため、各学部・学府から選出された学生で構成された教育担当理事の諮問機関。

² 詳細は『基幹教育紀要』第 4 巻掲載の「学生が考える学習時間が短い理由とその対策—平成 29 年度九州大学学生モニター会議活動報告」を参照。

載しています。次のようなことが本調査によって明らかになりました。

- ・ループリックの存在自体を知らない学部1年生と2年生は、予習復習時間が短い傾向がある（16 ページ）。
- ・GPA 制度が学習の動機づけに全くなっていないと思う学生のほうが、授業の枠にとらわれない学習を行ったり、自分が知らない世界にも挑戦したりしたいと考えている。また、新しいことを一から学ぶことを面倒だと感じていない（19 ページ）。
- ・シラバスをあまり活用していない学部1年生は GPA の平均値が低い（23 ページ）。
- ・4 学期制（8 週完結）の授業について、学びにくいと感じている学生の方が多い（30 ページ）。
- ・大学院生が1 週間に研究に費やす時間の平均は、授業期間中だと平均 32.2 時間、休み期間中だと 27.1 時間（41 ページ、45 ページ）。

本報告書が、本学の今後の教育改革を推進するための資料となることを期待いたします。また、学業、課外活動、アルバイト等で忙しい中、貴重な時間を使い本調査に回答していただいた学生の皆さんに感謝申し上げます。

九州大学総長（教育改革推進本部 本部長）

久保 千春

調査企画者・報告書執筆者

丸野 俊一（理事・副学長、（兼）教育改革推進本部 副本部長）

木村 拓也（人間環境学研究院、（兼）教育改革推進本部企画・評価部門 准教授）

中世古 貴彦*（教育改革推進本部企画・評価部門 特任助教）

* 本件問い合わせ先

第1章 調査の概要・回答状況等

第1節 調査の概要

本調査「学習実態に関する緊急調査」は、本学に所属する全学生（非正規課程も含む）を対象に、学習実態や学習に関する意識等を把握し、今後の本学の教育の在り方を議論するための資料とすることを目的として実施された。

本学の Moodle 上に設けたコース「教育・学習実態に関する緊急調査」の中に、本調査「学習実態に関する緊急調査」のアンケートフォームを設けた。各回答者は、調査期間（11月14日から12月11日）中に各自の SSO-KID を用いて Moodle にログイン後、コースに自己登録して回答した。調査設計は、教育改革推進本部に参画する教員等の一部が担当した。

学生に対する周知は、学生ポータルを利用した一斉通知、学生向け掲示板等へのポスター掲示、学生向けウェブ掲示板（一部部局）への情報掲載、口コミ等により行った。調査の実施に当たっては、総長（教育改革推進本部 本部長）並びに教育担当理事・副学長（同副本部長）名の文書により各部局に協力を要請した。また、調査の広報においては、学務部学務企画課企画調査係や各部局の協力を得た。

第2節 回収状況（Q1～6）

回答期限までに計 1099 人の学生から回答があった。各課程の在籍学生数に対する回答率は学部で 5.4%（633 人）、修士で 7.8%（308 人）、専門職で 2.7%（8 人）、博士で 5.3%（143 人）であった。なお、非正規課程の学生 7 人からも回答があった。回答者全体に占める割合では、女子学生 35.9%、留学生 7.6%、社会人 3.9%であった。

なお、学部学生の回答者の内訳は、1 年生と 4 年生それぞれ 200 人前後で、それぞれ 100 人前後しかいない 2 年生と 3 年生よりも多かった。また、回答者の GPA は母集団よりわずかながら高めであるが、回答者における学年（1 年生は GPA が高い）や学部の偏りも影響していると考えられる。ただし、後述する進学理由や希望進路に対する回答は平成 27 年度学生生活実態調査の結果とあまり変わらず、必ずしも大学院進学や研究職への就職を目指すような学生ばかりが調査に回答したわけではない。

回答者の分布状況

| 課程区分 | 性別 | 学年 | | | | | | 合計 | |
|------|----|----|-----|-----|-----|-----|----|----|------|
| | | なし | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | | 6 |
| 学部 | 男 | 0 | 127 | 53 | 59 | 118 | 6 | 6 | 369 |
| | 女 | 0 | 98 | 44 | 45 | 68 | 5 | 4 | 264 |
| | 合計 | 0 | 225 | 97 | 104 | 186 | 11 | 10 | 633 |
| 修士 | 男 | 0 | 124 | 110 | 0 | 0 | 0 | 0 | 234 |
| | 女 | 0 | 41 | 33 | 0 | 0 | 0 | 0 | 74 |
| | 合計 | 0 | 165 | 143 | 0 | 0 | 0 | 0 | 308 |
| 専門職 | 男 | 0 | 1 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 女 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 |
| | 合計 | 0 | 3 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 |
| 博士 | 男 | 0 | 36 | 30 | 26 | 3 | 2 | 0 | 97 |
| | 女 | 0 | 10 | 18 | 13 | 3 | 2 | 0 | 46 |
| | 合計 | 0 | 46 | 48 | 39 | 6 | 4 | 0 | 143 |
| 非正規 | 女 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| | 合計 | 7 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 7 |
| 合計 | 合計 | 7 | 439 | 293 | 143 | 192 | 15 | 10 | 1099 |

学部の回答状況

| 学部 | 学生 | | |
|-----------|--------|-----|-------|
| | 在籍数 | 回答数 | 回答率 |
| 文学部 | 717 | 52 | 7.3% |
| 教育学部 | 219 | 76 | 34.7% |
| 法学部 | 849 | 12 | 1.4% |
| 経済学部 | 1,069 | 26 | 2.4% |
| 理学部 | 1,217 | 80 | 6.6% |
| 医学部 | 1,312 | 89 | 6.8% |
| 歯学部 | 325 | 12 | 3.7% |
| 薬学部 | 388 | 46 | 11.9% |
| 工学部 | 3,612 | 113 | 3.1% |
| 芸術工学部 | 872 | 43 | 4.9% |
| 農学部 | 1,015 | 30 | 3.0% |
| 21世紀プログラム | 113 | 54 | 47.8% |
| 合計 | 11,708 | 633 | 5.4% |
| 非正規学生（参考） | 241 | 2 | 0.8% |

専門職学位課程の回答状況

| 専門職 | 学生 | | |
|----------------|-----|-----|------|
| | 在籍数 | 回答数 | 回答率 |
| 実践臨床心理学専攻（人環） | 61 | 3 | 4.9% |
| 実務法学専攻（法務） | 95 | 4 | 4.2% |
| 産業マネジメント専攻（経済） | 100 | 1 | 1.0% |
| 医療経営・管理学専攻（医系） | 35 | 0 | 0.0% |
| 合計 | 291 | 8 | 2.7% |

修士課程・博士課程の回答状況

| 修士・博士 | 修士学生 | | | 博士学生 | | |
|-----------|-------|-----|-------|-------|-----|-------|
| | 在籍数 | 回答数 | 回答率 | 在籍数 | 回答数 | 回答率 |
| 人文科学府 | 95 | 9 | 9.5% | 84 | 4 | 4.8% |
| 比較社会文化学府/ | 120 | 10 | 8.3% | 136 | 16 | 11.8% |
| 人間環境学府 | 238 | 23 | 9.7% | 118 | 17 | 14.4% |
| 法学府 | 107 | 3 | 2.8% | 28 | 0 | 0.0% |
| 経済学府 | 111 | 2 | 1.8% | 52 | 1 | 1.9% |
| 理学府 | 306 | 14 | 4.6% | 82 | 5 | 6.1% |
| 数理学府 | 118 | 16 | 13.6% | 50 | 2 | 4.0% |
| システム生命科学府 | - | - | - | 262 | 20 | 7.6% |
| 医学系学府 | 118 | 19 | 16.1% | 614 | 13 | 2.1% |
| 歯学府 | - | - | - | 129 | 2 | 1.6% |
| 薬学府 | 101 | 23 | 22.8% | 90 | 18 | 20.0% |
| 工学府 | 986 | 70 | 7.1% | 433 | 19 | 4.4% |
| 芸術工学府 | 282 | 16 | 5.7% | 109 | 3 | 2.8% |
| システム情報科学府 | 345 | 8 | 2.3% | 108 | 0 | 0.0% |
| 総合理工学府 | 473 | 69 | 14.6% | 148 | 16 | 10.8% |
| 生物資源環境科学府 | 424 | 18 | 4.2% | 186 | 6 | 3.2% |
| 統合新領域学府 | 117 | 8 | 6.8% | 53 | 1 | 1.9% |
| 合計 | 3,941 | 308 | 7.8% | 2,682 | 143 | 5.3% |
| 非正規学生（参考） | 472 | 5 | 1.1% | - | - | - |

第2章 進学理由・希望進路・経済状況等

第1節 大学進学の主たる理由 (Q7)

| | | 学問、研究に打ち込むため | 良い就職に必要な学歴や資格を得るため | 良き友人を得て青春をエンジョイするため | とりあえず進学しておこうと思ったため | 合計 |
|-----|----|--------------|--------------------|---------------------|--------------------|--------|
| 学部 | 度数 | 230 | 286 | 28 | 91 | 635 |
| | % | 36.2% | 45.0% | 4.4% | 14.3% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 282 | 142 | 3 | 37 | 464 |
| | % | 60.8% | 30.6% | 0.6% | 8.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 512 | 428 | 31 | 128 | 1099 |
| | % | 46.6% | 38.9% | 2.8% | 11.6% | 100.0% |

学部で最も多い進学理由は、「良い就職に必要な学歴や資格を得るため」(45.0%)だった。大学院では「学問、研究に打ち込むため」(60.8%)だった。

第2節 現在所属している学科・専攻等への進学は第一志望か (Q8)

| | | 第一志望だった | 第二志望以下だった | 合計 |
|-----|----|---------|-----------|--------|
| 学部 | 度数 | 495 | 140 | 635 |
| | % | 78.0% | 22.0% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 425 | 39 | 464 |
| | % | 91.6% | 8.4% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 920 | 179 | 1099 |
| | % | 83.7% | 16.3% | 100.0% |

学部では78.0%が、大学院では91.6%が「第一志望だった」と回答した。

第3節 希望進路 (Q9)

| | | 就職 | 九州大学の大学院に進学 | 日本国内の他大学院に進学 | 海外の大学院に進学 | 未定 | その他 | 合計 |
|-----|----|-------|-------------|--------------|-----------|------|------|--------|
| 学部 | 度数 | 279 | 223 | 52 | 9 | 61 | 11 | 635 |
| | % | 43.9% | 35.1% | 8.2% | 1.4% | 9.6% | 1.7% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 343 | 48 | 3 | 5 | 35 | 30 | 464 |
| | % | 73.9% | 10.3% | 0.6% | 1.1% | 7.5% | 6.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 622 | 271 | 55 | 14 | 96 | 41 | 1099 |
| | % | 56.6% | 24.7% | 5.0% | 1.3% | 8.7% | 3.7% | 100.0% |

卒業・修了後は「就職」を希望する者が学部（43.9%）でも大学院（73.9%）でも最も多かった。学部の回答者の35.1%は「九州大学の大学院に進学」を希望しているが、合わせて1割程度の学生が他大学の大学院（国内8.2%、海外1.4%）への進学を希望している。

第4節 希望職業 (Q10)

| | | 大学等の教育・研究職 | 民間企業の研究職 | 民間企業の総合職等 | 公務員 | 教員（大学を除く） | 専門職（大学等の教育・研究職を除く） | その他（企業、自営業等） | 合計 |
|-----|----|------------|----------|-----------|-------|-----------|--------------------|--------------|--------|
| 学部 | 度数 | 77 | 115 | 158 | 83 | 28 | 128 | 46 | 635 |
| | % | 12.1% | 18.1% | 24.9% | 13.1% | 4.4% | 20.2% | 7.2% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 108 | 156 | 116 | 12 | 10 | 39 | 23 | 464 |
| | % | 23.3% | 33.6% | 25.0% | 2.6% | 2.2% | 8.4% | 5.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 185 | 271 | 274 | 95 | 38 | 167 | 69 | 1099 |
| | % | 16.8% | 24.7% | 24.9% | 8.6% | 3.5% | 15.2% | 6.3% | 100.0% |

学部では「民間企業の総合職等」（24.9%）、「専門職」（20.2%）、「民間企業の研究職」（18.1%）を志望する者が多い。大学院では「民間企業の研究職」（33.6%）、「民間企業の総合職等」（25.0%）、「大学等の教育・研究職」（23.3%）を志望する者が多い。

第5節 将来の夢や目標は具体的に決まっているか (Q11)

| | | あまり考え ていない | どうするか 悩んでいる | ある程度定 まっている | 明確に定 まっている | 合計 |
|-----|----|---------------|----------------|----------------|---------------|--------|
| 学部 | 度数 | 75 | 243 | 248 | 69 | 635 |
| | % | 11.8% | 38.3% | 39.1% | 10.9% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 43 | 112 | 222 | 87 | 464 |
| | % | 9.3% | 24.1% | 47.8% | 18.8% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 118 | 355 | 470 | 156 | 1099 |
| | % | 10.7% | 32.3% | 42.8% | 14.2% | 100.0% |

将来の夢や目標について「明確に定まっている」者は、学部では 10.9%、大学院でも 18.8%にとどまった。

なお、夢や目標の定まり具合の程度別に、後述する授業期間中の週当たりの予習復習時間、研究時間、自主的な学習時間の分布を確認したが、学部では全く関連がなく、大学院では「明確に定まっている」と自主的な学習時間だけがわずかに長くなる傾向がみられた。

第6節 最も得意な外国語の運用能力 (Q12)

| | | 全くでき ない | あまりで きない | 何とか日 常会話が できる | 交換留学 程度なら 挑戦でき る | 大学院留 学も挑戦 できる | 合計 |
|-----|----|------------|-------------|---------------------|---------------------------|---------------------|--------|
| 学部 | 度数 | 50 | 270 | 235 | 63 | 17 | 635 |
| | % | 7.9% | 42.5% | 37.0% | 9.9% | 2.7% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 31 | 169 | 168 | 59 | 37 | 464 |
| | % | 6.7% | 36.4% | 36.2% | 12.7% | 8.0% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 81 | 439 | 403 | 122 | 54 | 1099 |
| | % | 7.4% | 39.9% | 36.7% | 11.1% | 4.9% | 100.0% |

外国語運用能力の自己評価は、学部より大学院のほうがわずかに高いが、「大学院留学も挑戦できる」者は学部で 2.7%、大学院で 8.0%、「交換留学程度なら挑戦できる」者も学部で 9.9%、大学院で 12.7%にとどまった。

第7節 経済状況 (Q13)

| | | しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい | (学業継続より) 小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある | アルバイトをする必要があまりない | 社会人学生で収入があるので学業継続に関して経済的支障はない | 合計 |
|-----|----|-------------------------|---------------------------------|------------------|-------------------------------|--------|
| 学部 | 度数 | 83 | 341 | 205 | 6 | 635 |
| | % | 13.1% | 53.7% | 32.3% | 0.9% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 67 | 159 | 203 | 35 | 464 |
| | % | 14.4% | 34.3% | 43.8% | 7.5% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 150 | 500 | 408 | 41 | 1099 |
| | % | 13.6% | 45.5% | 37.1% | 3.7% | 100.0% |

「しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい」者は、学部でも大学院でも 14%程度であった。「(学業継続より) 小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある」者は学部で 53.7%、大学院で 34.3%だった。「アルバイトをする必要があまりない」者は学部で 32.3%、大学院で 43.8%だった。

第3章 学びの姿勢や大学教育に関する見方 (Q14)

「以下のような学びの姿勢や大学教育に関する見方は、あなたの場合どれくらい当てはまりますか」という問いへの回答は次の通りだった。

| Q14_学習姿勢、大学教育観 | 学部 | | 大学院 | |
|----------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| 将来に向けて今何を学ぶべきかを考えている | | | | |
| あてはまらない | 26 | 4.1% | 14 | 3.0% |
| あまりあてはまらない | 68 | 10.7% | 28 | 6.0% |
| どちらでもない | 98 | 15.4% | 62 | 13.4% |
| ややあてはまる | 259 | 40.8% | 159 | 34.3% |
| あてはまる | 184 | 29.0% | 201 | 43.3% |
| 授業の枠にとらわれない学習をしている | | | | |
| あてはまらない | 53 | 8.3% | 32 | 6.9% |
| あまりあてはまらない | 141 | 22.2% | 55 | 11.9% |
| どちらでもない | 160 | 25.2% | 99 | 21.3% |
| ややあてはまる | 150 | 23.6% | 140 | 30.2% |
| あてはまる | 131 | 20.6% | 138 | 29.7% |
| 自分が知らない世界にも挑戦してみたい | | | | |
| あてはまらない | 23 | 3.6% | 12 | 2.6% |
| あまりあてはまらない | 48 | 7.6% | 36 | 7.8% |
| どちらでもない | 122 | 19.2% | 60 | 12.9% |
| ややあてはまる | 219 | 34.5% | 167 | 36.0% |
| あてはまる | 223 | 35.1% | 189 | 40.7% |
| 敢えて難しそうな授業にも挑戦している | | | | |
| あてはまらない | 107 | 16.9% | 64 | 13.8% |
| あまりあてはまらない | 136 | 21.4% | 86 | 18.5% |
| どちらでもない | 177 | 27.9% | 126 | 27.2% |
| ややあてはまる | 135 | 21.3% | 115 | 24.8% |
| あてはまる | 80 | 12.6% | 73 | 15.7% |

| Q14_学習姿勢、大学教育観 | 学部 | | 大学院 | |
|-------------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| 論文、レポート、課題等の質をできるだけ高めたい | | | | |
| あてはまらない | 24 | 3.8% | 22 | 4.7% |
| あまりあてはまらない | 70 | 11.0% | 31 | 6.7% |
| どちらでもない | 140 | 22.0% | 79 | 17.0% |
| ややあてはまる | 243 | 38.3% | 167 | 36.0% |
| あてはまる | 158 | 24.9% | 165 | 35.6% |
| 最小限の努力で単位をそろえたい | | | | |
| あてはまらない | 48 | 7.6% | 51 | 11.0% |
| あまりあてはまらない | 107 | 16.9% | 83 | 17.9% |
| どちらでもない | 161 | 25.4% | 121 | 26.1% |
| ややあてはまる | 171 | 26.9% | 123 | 26.5% |
| あてはまる | 148 | 23.3% | 86 | 18.5% |
| 新しいことを一から学ぶのは面倒だ | | | | |
| あてはまらない | 139 | 21.9% | 110 | 23.7% |
| あまりあてはまらない | 219 | 34.5% | 154 | 33.2% |
| どちらでもない | 153 | 24.1% | 110 | 23.7% |
| ややあてはまる | 97 | 15.3% | 69 | 14.9% |
| あてはまる | 27 | 4.3% | 21 | 4.5% |
| 授業の内容と将来やりたいことの間に関連がある | | | | |
| あてはまらない | 53 | 8.3% | 21 | 4.5% |
| あまりあてはまらない | 100 | 15.7% | 49 | 10.6% |
| どちらでもない | 163 | 25.7% | 95 | 20.5% |
| ややあてはまる | 185 | 29.1% | 157 | 33.8% |
| あてはまる | 134 | 21.1% | 142 | 30.6% |

このページに掲載した中では、「将来に向けて今何を学ぶべきかを考えている」「授業の枠にとらわれない学習をしている」「自分が知らない世界にも挑戦してみたい」「論文、レポート、課題等の質をできるだけ高めたい」「授業の内容と将来やりたいことの間に関連がある」に対する回答の分布に、学部と大学院で有意差がみられた。いずれも大学院のほうが肯定的な回答が多かった。

このページに掲載した中では、「学術研究に関わる仕事に就きたい」に対する回答の分布に、学部と大学院で有意差がみられた。大学院のほうが肯定的な回答が多かった。

| Q14_学習姿勢、大学教育観 | 学部 | | 大学院 | |
|--------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| 学術研究に携わる仕事に就きたい | | | | |
| あてはまらない | 135 | 21.3% | 54 | 11.6% |
| あまりあてはまらない | 160 | 25.2% | 64 | 13.8% |
| どちらでもない | 158 | 24.9% | 109 | 23.5% |
| ややあてはまる | 99 | 15.6% | 101 | 21.8% |
| あてはまる | 83 | 13.1% | 136 | 29.3% |
| 良い就職ができればそれでよい | | | | |
| あてはまらない | 66 | 10.4% | 52 | 11.2% |
| あまりあてはまらない | 124 | 19.5% | 72 | 15.5% |
| どちらでもない | 180 | 28.3% | 136 | 29.3% |
| ややあてはまる | 175 | 27.6% | 118 | 25.4% |
| あてはまる | 90 | 14.2% | 86 | 18.5% |
| 自分の専攻する学問自体が面白いと思う | | | | |
| あてはまらない | 18 | 2.8% | 9 | 1.9% |
| あまりあてはまらない | 31 | 4.9% | 16 | 3.4% |
| どちらでもない | 112 | 17.6% | 60 | 12.9% |
| ややあてはまる | 231 | 36.4% | 176 | 37.9% |
| あてはまる | 243 | 38.3% | 203 | 43.8% |

| Q14_学習姿勢、大学教育観 | 学部 | | 大学院 | |
|-------------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| 授業以外の経験から多くを学びたいと思う | | | | |
| あてはまらない | 12 | 1.9% | 11 | 2.4% |
| あまりあてはまらない | 34 | 5.4% | 16 | 3.4% |
| どちらでもない | 101 | 15.9% | 61 | 13.1% |
| ややあてはまる | 226 | 35.6% | 170 | 36.6% |
| あてはまる | 262 | 41.3% | 206 | 44.4% |
| 自分の専攻する学問と社会とのつながり理解できる | | | | |
| あてはまらない | 14 | 2.2% | 15 | 3.2% |
| あまりあてはまらない | 43 | 6.8% | 22 | 4.7% |
| どちらでもない | 103 | 16.2% | 72 | 15.5% |
| ややあてはまる | 266 | 41.9% | 174 | 37.5% |
| あてはまる | 209 | 32.9% | 181 | 39.0% |

第4章 授業や論文指導の際に教員に期待すること (Q15)

「授業や論文指導の際に、以下のことをどれくらい教員に期待していますか」という問いに対する回答の分布は次のとおりだった。

| Q15_教員に望むこと | 学部 | | 大学院 | |
|-------------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| わかりやすく教えること | | | | |
| 全く期待していない | 26 | 4.1% | 18 | 3.9% |
| 期待していない | 31 | 4.9% | 29 | 6.3% |
| どちらとも言えない | 55 | 8.7% | 67 | 14.4% |
| 期待している | 216 | 34.0% | 153 | 33.0% |
| とても期待している | 307 | 48.3% | 197 | 42.5% |
| 学生が主体性を発揮するように考えさせること | | | | |
| 全く期待していない | 25 | 3.9% | 15 | 3.2% |
| 期待していない | 84 | 13.2% | 38 | 8.2% |
| どちらとも言えない | 209 | 32.9% | 94 | 20.3% |
| 期待している | 198 | 31.2% | 186 | 40.1% |
| とても期待している | 119 | 18.7% | 131 | 28.2% |
| 学生自身も気付いていない可能性に気付かせること | | | | |
| 全く期待していない | 35 | 5.5% | 18 | 3.9% |
| 期待していない | 57 | 9.0% | 30 | 6.5% |
| どちらとも言えない | 137 | 21.6% | 58 | 12.5% |
| 期待している | 213 | 33.5% | 165 | 35.6% |
| とても期待している | 193 | 30.4% | 193 | 41.6% |
| 研究者よりもよき教育者であること | | | | |
| 全く期待していない | 43 | 6.8% | 26 | 5.6% |
| 期待していない | 95 | 15.0% | 47 | 10.1% |
| どちらとも言えない | 210 | 33.1% | 174 | 37.5% |
| 期待している | 161 | 25.4% | 107 | 23.1% |
| とても期待している | 126 | 19.8% | 110 | 23.7% |
| 教育者よりもよき研究者であること | | | | |
| 全く期待していない | 55 | 8.7% | 38 | 8.2% |
| 期待していない | 115 | 18.1% | 64 | 13.8% |
| どちらとも言えない | 264 | 41.6% | 194 | 41.8% |
| 期待している | 124 | 19.5% | 104 | 22.4% |
| とても期待している | 77 | 12.1% | 64 | 13.8% |
| 研究者としてのロールモデルを示すこと | | | | |
| 全く期待していない | 46 | 7.2% | 25 | 5.4% |
| 期待していない | 101 | 15.9% | 30 | 6.5% |
| どちらとも言えない | 214 | 33.7% | 111 | 23.9% |
| 期待している | 191 | 30.1% | 189 | 40.7% |
| とても期待している | 83 | 13.1% | 109 | 23.5% |
| 学問と実社会との結びつきを教えること | | | | |
| 全く期待していない | 37 | 5.8% | 21 | 4.5% |
| 期待していない | 81 | 12.8% | 41 | 8.8% |
| どちらとも言えない | 139 | 21.9% | 106 | 22.8% |
| 期待している | 240 | 37.8% | 160 | 34.5% |
| とても期待している | 138 | 21.7% | 136 | 29.3% |
| 学生との対話の場を持つこと | | | | |
| 全く期待していない | 25 | 3.9% | 17 | 3.7% |
| 期待していない | 52 | 8.2% | 17 | 3.7% |
| どちらとも言えない | 161 | 25.4% | 87 | 18.8% |
| 期待している | 241 | 38.0% | 194 | 41.8% |
| とても期待している | 156 | 24.6% | 149 | 32.1% |

このページに掲載されている中では、「わかりやすく教えること」(学部のほうが肯定的)、および「学生が主体性を発揮するように考えさせること」「学生自身も気付いていない可能性に気付かせること」「研究者としてのロールモデルを示すこと」「学問と実社会との結びつきを教えること」「学生と対話の場を持つこと」(大学院のほうが肯定的)の回答分布に学部と大学院で有意差があった。

このページに掲載されている中では、「学問を究めることの厳しさを教えること」「失敗やつまずきから学ぶことの重要性を教えること」の回答分布に学部と大学院で有意差があった。いずれも大学院のほうが肯定的であった。

| Q15_教員に望むこと | 学部 | | 大学院 | |
|--------------------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| 学問を究めることの厳しさを教えること | | | | |
| 全く期待していない | 61 | 9.6% | 25 | 5.4% |
| 期待していない | 138 | 21.7% | 62 | 13.4% |
| どちらとも言えない | 215 | 33.9% | 132 | 28.4% |
| 期待している | 153 | 24.1% | 146 | 31.5% |
| とても期待している | 68 | 10.7% | 99 | 21.3% |
| 学問を究めることの楽しさ・喜びを教えること | | | | |
| 全く期待していない | 25 | 3.9% | 18 | 3.9% |
| 期待していない | 24 | 3.8% | 16 | 3.4% |
| どちらとも言えない | 102 | 16.1% | 52 | 11.2% |
| 期待している | 240 | 37.8% | 184 | 39.7% |
| とても期待している | 244 | 38.4% | 194 | 41.8% |
| 失敗やつまずきから学ぶことの重要性を教えること | | | | |
| 全く期待していない | 32 | 5.0% | 23 | 5.0% |
| 期待していない | 50 | 7.9% | 24 | 5.2% |
| どちらとも言えない | 140 | 22.0% | 75 | 16.2% |
| 期待している | 244 | 38.4% | 176 | 37.9% |
| とても期待している | 169 | 26.6% | 166 | 35.8% |

第5章 各種制度の活用やカリキュラム・学習環境等への評価

第1節 ルーブリックの意識度 (Q16)

| | | 存在自体を知らなかった | 知っているがほとんど意識していない | 多少意識している | 大いに意識している | 合計 |
|-----|----|-------------|-------------------|----------|-----------|--------|
| 学部 | 度数 | 148 | 358 | 117 | 12 | 635 |
| | % | 23.3% | 56.4% | 18.4% | 1.9% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 291 | 101 | 59 | 13 | 464 |
| | % | 62.7% | 21.8% | 12.7% | 2.8% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 439 | 459 | 176 | 25 | 1099 |
| | % | 39.9% | 41.8% | 16.0% | 2.3% | 100.0% |

「学習に際して各授業のルーブリックを意識していますか」という質問に対して、学部生の23.3%、大学院生の62.7%が「存在自体を知らなかった」。また、学部生の56.4%、大学院生の21.8%が「知っているがほとんど意識していない」。多少または大いに「意識している」者は、学部でも大学院でも合わせて2割程度にとどまった。

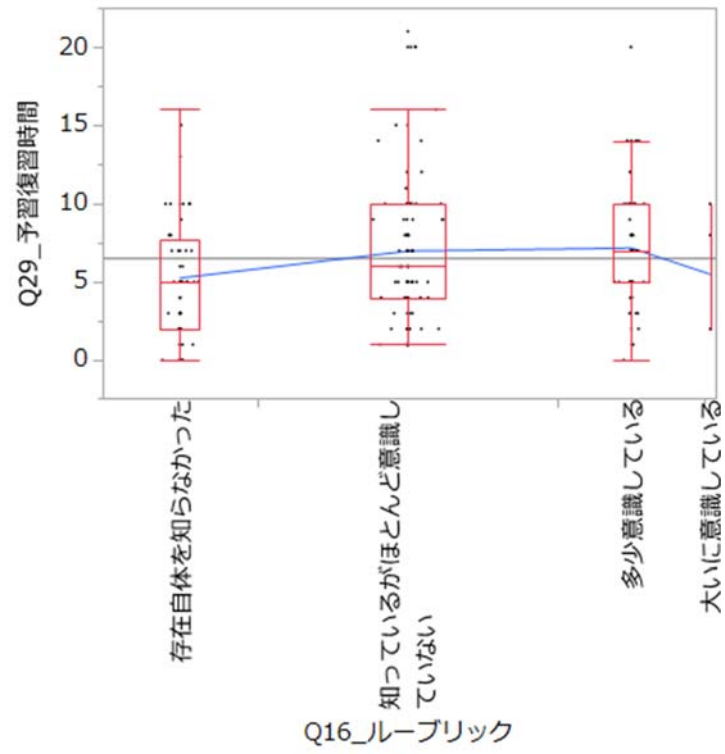
なお、学部生がルーブリックを意識する程度と後述の予習復習時間の長短との関係を学年別に検討した。ノンパラメトリックな多重比較 (Steel-Dwass 検定) の結果、1年生では、「存在自体を知らなかった」者は「多少意識している」者のよりも予習復習時間が有意に短かった。2年生では「存在自体を知らなかった」者は「知っているがほとんど意識していない」者よりも予習復習時間が統計的に有意に短かった。

1年生の予習復習時間

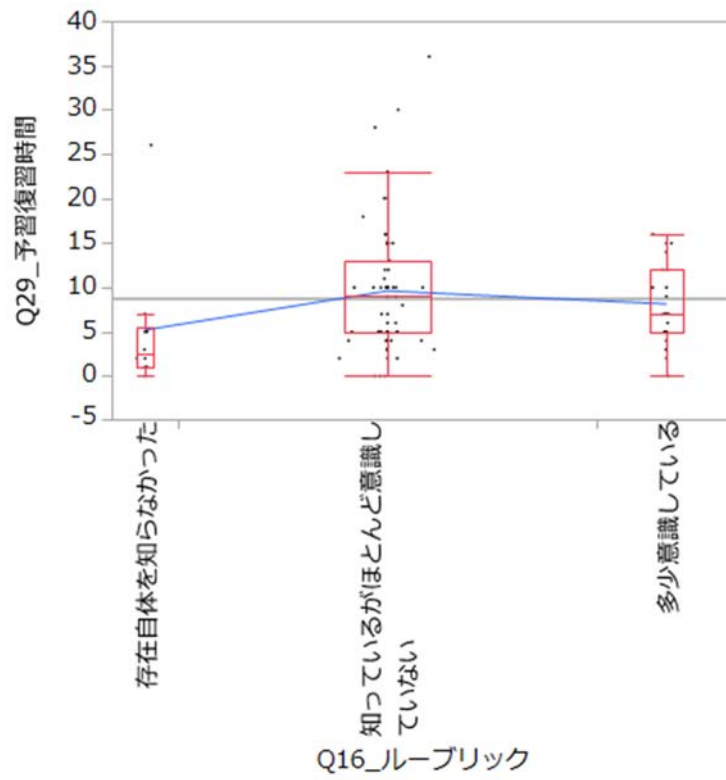
| 分位点 | | | | | | | |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|------|------|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 存在自体を知らなかった | 0 | 0.7 | 2 | 5 | 7.75 | 10 | 16 |
| 知っているがほとんど意識していない | 1 | 2 | 4 | 6 | 10 | 12 | 21 |
| 多少意識している | 0 | 2.4 | 5 | 7 | 10 | 13.2 | 20 |
| 大いに意識している | 2 | 2 | 2 | 5 | 9.5 | 10 | 10 |

2年生の予習復習時間

| 分位点 | | | | | | | |
|-------------------|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 存在自体を知らなかった | 0 | 0.1 | 1 | 2.5 | 5.5 | 24.1 | 26 |
| 知っているがほとんど意識していない | 0 | 2.4 | 5 | 9 | 13 | 19.2 | 36 |
| 多少意識している | 0 | 2.2 | 5 | 7 | 12 | 15 | 16 |



1年生の予習復習時間



2年生の予習復習時間

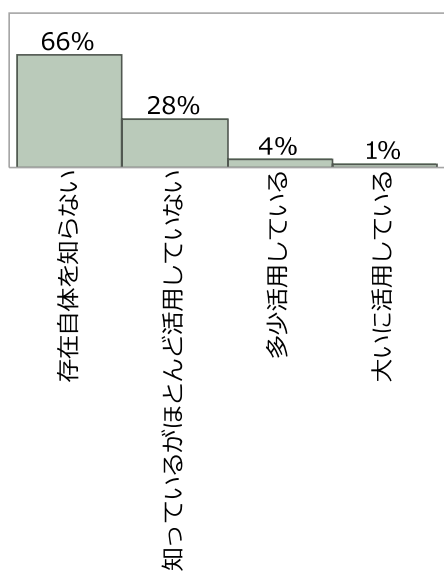
第2節 カリキュラム・マップの活用度 (Q17)

| | | 存在自体を知らなかった | 知っているがほとんど活用していない | 多少活用している | 大いに活用している | 合計 |
|-----|----|-------------|-------------------|----------|-----------|--------|
| 学部 | 度数 | 328 | 193 | 88 | 26 | 635 |
| | % | 51.7% | 30.4% | 13.9% | 4.1% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 225 | 143 | 81 | 15 | 464 |
| | % | 48.5% | 30.8% | 17.5% | 3.2% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 553 | 336 | 169 | 41 | 1099 |
| | % | 50.3% | 30.6% | 15.4% | 3.7% | 100.0% |

「学習計画を立てる際に、所属部局のカリキュラム・マップをどれくらい活用していますか」という質問に対して、学部でも大学院でも「存在自体を知らなかった」者が約 50%、「知っているがほとんど活用していない」者が約 30%だった。多少または大いに「活用している」者は、学部でも大学院でも 20%程度だった。

第3節 科目ナンバリングの活用度 (Q18)

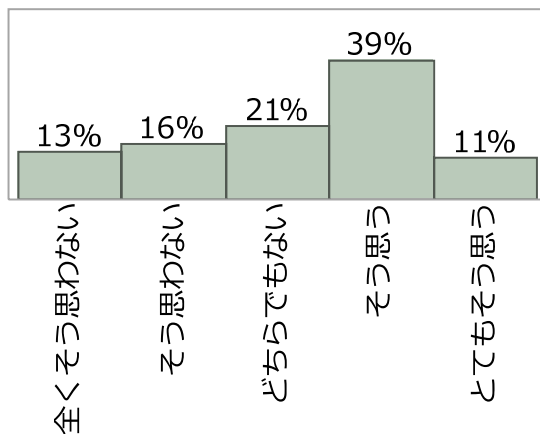
Q18_科目ナンバリング



| 度数 | | |
|-------------------|-----|--------|
| 水準 | 度数 | 割合 |
| 存在自体を知らない | 412 | 66.3% |
| 知っているがほとんど活用していない | 176 | 28.3% |
| 多少活用している | 26 | 4.2% |
| 大いに活用している | 7 | 1.1% |
| 合計 | 621 | 100.0% |

学部生が対象の「学習計画を立てる際に、所属部局の科目ナンバリングをどれくらい活用していますか」という問いに対し、学部生の 66.3%が「存在自体を知らない」と回答した。「知っているがほとんど活用していない」者も 28.3%近くに上り、多少または大いに活用している者は 5%程度だった。

Q19_GPAで動機付け

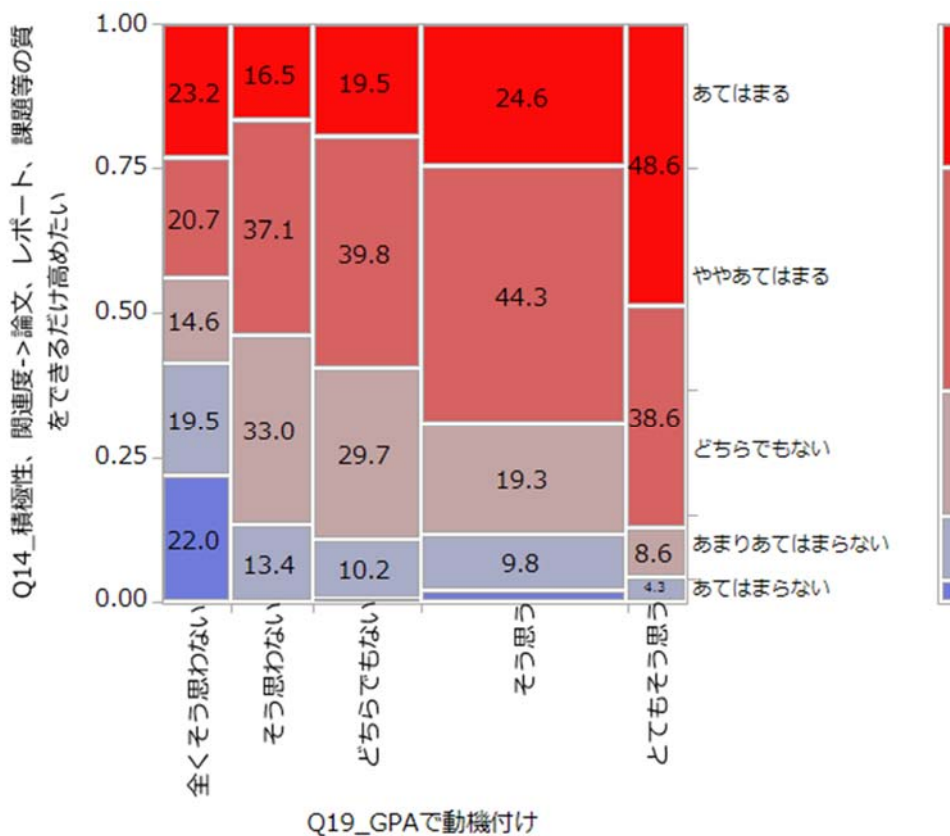


度数

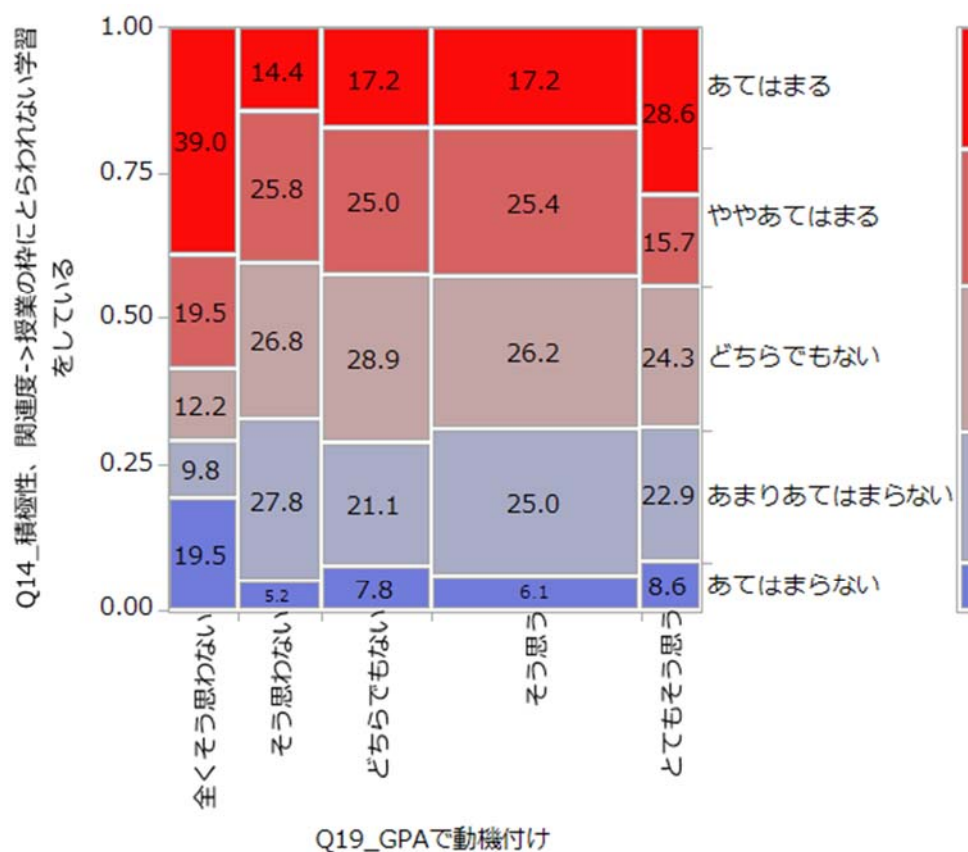
| 水準 | 度数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| 全くそう思わない | 82 | 13.2% |
| そう思わない | 97 | 15.6% |
| どちらでもない | 128 | 20.6% |
| そう思う | 244 | 39.3% |
| とてもそう思う | 70 | 11.3% |
| 合計 | 621 | 100.0% |

学部生が対象の「GPA 制度は、あなたにとって学業に励むことへの動機づけになっていると思いますか」という質問に対し、約半数の学生が「そう思う」または「とてもそう思う」と回答した。約3割の学生が「そう思わない」または「全くそう思わない」と回答した。

また、GPA 制度が動機づけになっていると回答している学生のほうが、「論文、レポート、課題等の質をできるだけ高めたい」という質問に対して肯定的に回答していた。

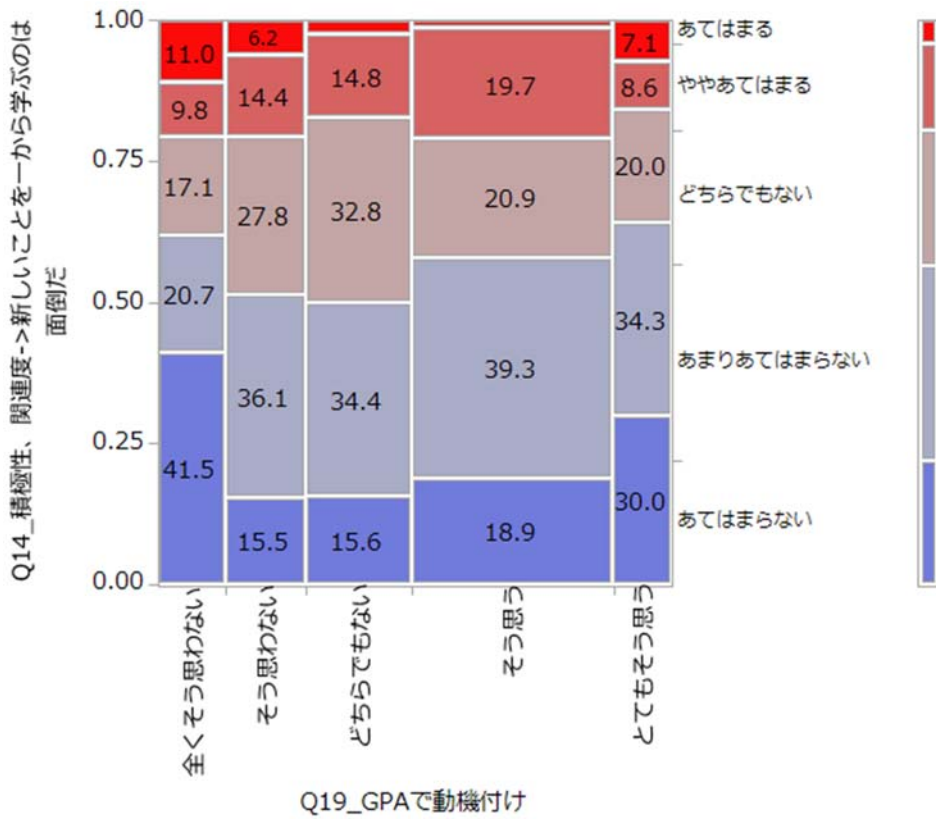
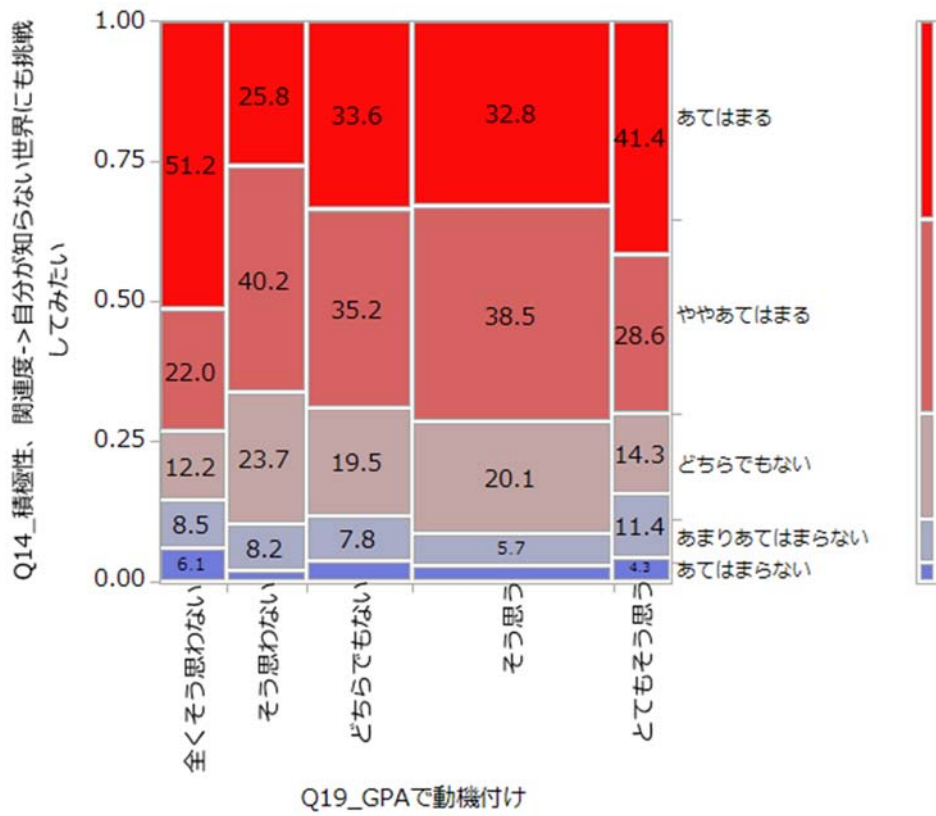


ただし、GPA 制度が動機づけになっているかという問いに「全くそう思わない」と回答した者の中には、学習に対してむしろ積極的な意識を抱いている者も一部存在する。「全くそう思わない」者の 39.0%が「授業の枠にとらわれない学習をしている」と思うかという質問に対して「あてはまる」と回答した。「ややあてはまる」という回答も 19.5%であった。



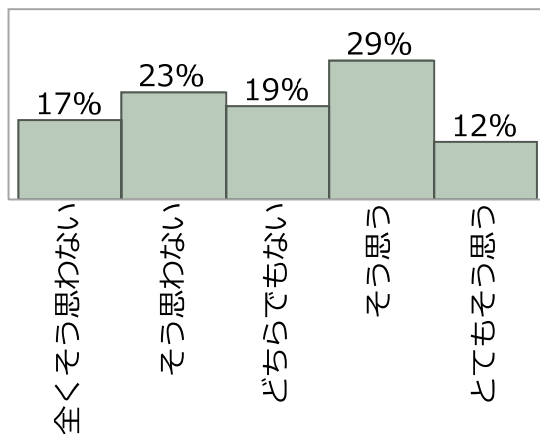
また、「全くそう思わない」者の 51.2%が「自分が知らない世界にも挑戦してみたい」と思うかという問いに対して「あてはまる」と回答した。「ややあてはまる」という回答も 22.0%存在した。

さらに、「全くそう思わない」者の 41.5%が「新しいことを一から学ぶのは面倒だ」と思うかという問いに対して「あてはまらない」と回答した。「あまりあてはまらない」という回答も 20.7%存在した。



第5節 GPA 低下が嫌なので難しそうな授業の履修を避けているか (Q20)

Q20_GPAで萎縮する

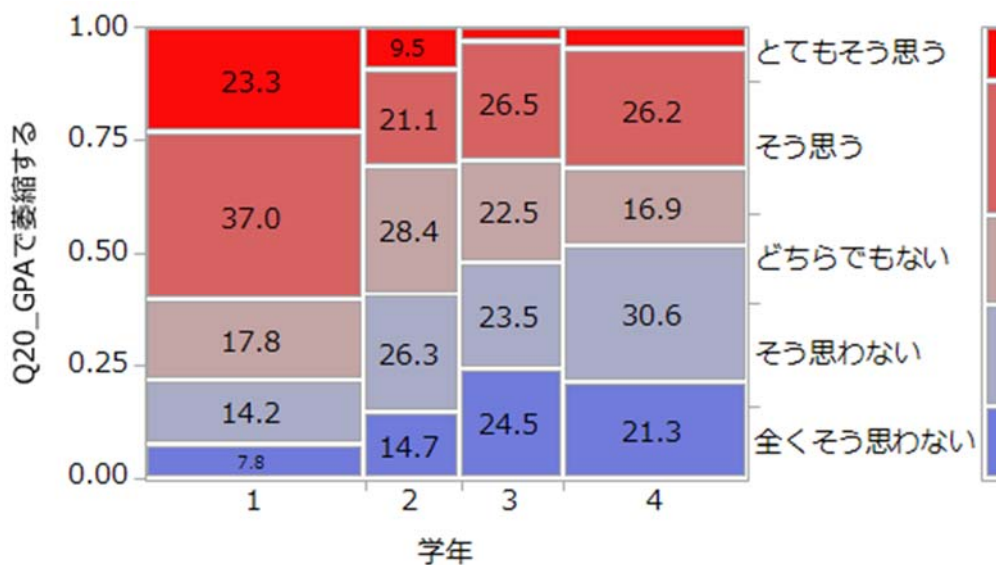


度数

| 水準 | 度数 | 割合 |
|----------|-----|--------|
| 全くそう思わない | 104 | 16.7% |
| そう思わない | 140 | 22.5% |
| どちらでもない | 121 | 19.5% |
| そう思う | 181 | 29.1% |
| とてもそう思う | 75 | 12.1% |
| 合計 | 621 | 100.0% |

学部生が対象の「あなた自身は、GPA が低下すると嫌なので難しそうな授業の履修を避けていると思いますか」という質問に対し、約 40%の学生が「そう思う」または「とてもそう思う」と回答し、約 40%の学部生が「そう思わない」または「全くそう思わない」と回答した。

なお、学年別に見ると、学部 1 年生の約 60%が、「そう思う」または「とてもそう思う」と回答した。

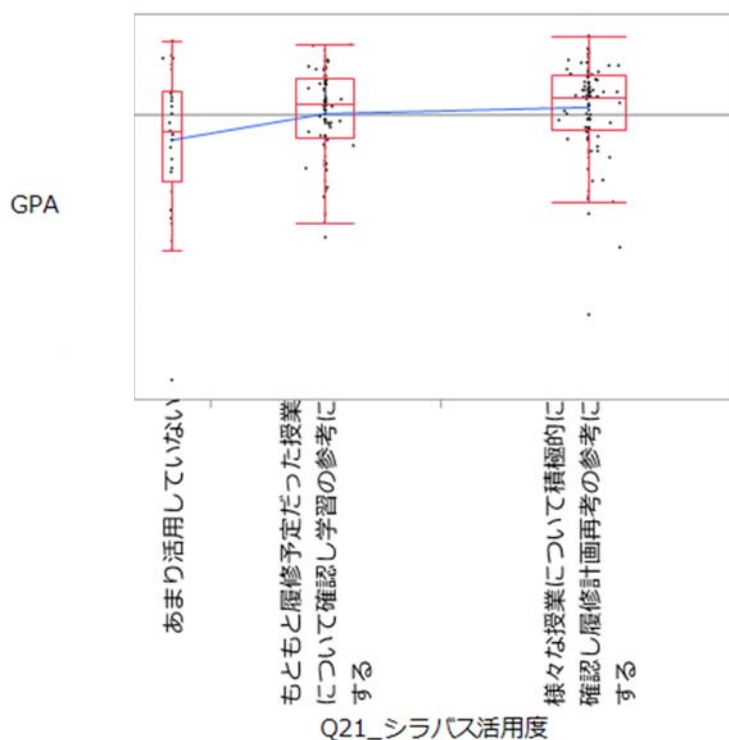


第6節 シラバスの活用度 (Q21)

| | | あまり活用していない | もともと履修予定だった授業について確認し学習の参考にする | 様々な授業について積極的に確認し履修計画再考の参考にする | 合計 |
|-----|----|------------|------------------------------|------------------------------|--------|
| 学部 | 度数 | 105 | 296 | 234 | 635 |
| | % | 16.5% | 46.6% | 36.9% | 100.0% |
| 大学院 | 度数 | 167 | 206 | 91 | 464 |
| | % | 36.0% | 44.4% | 19.6% | 100.0% |
| 合計 | 度数 | 272 | 502 | 325 | 1099 |
| | % | 24.7% | 45.7% | 29.6% | 100.0% |

「学習計画を立てる際に、シラバスをどのように活用していますか」という問いに対して、「あまり活用していない」と回答したものは学部で 16.5%、大学院で 36.0% だった。「もともと履修予定だった授業について確認し学習の参考にする」と回答した者は、学部でも大学院でも約 45% だった。「様々な授業について積極的に確認し履修計画再考の参考にする」と回答した者は、学部で 36.9%、大学院で 19.6% だった。

なお、学部 1 年生のみシラバスの活用度と GPA の分布に関連がみられ、多重比較 (Tukey-Kramer の HSD 検定) の結果、「あまり活用していない」者の GPA の平均値は有意に低かった。ただし、予習復習時間に関してシラバスの活用度による有意差は見られなかった。



1 年生の GPA とシラバス活用度

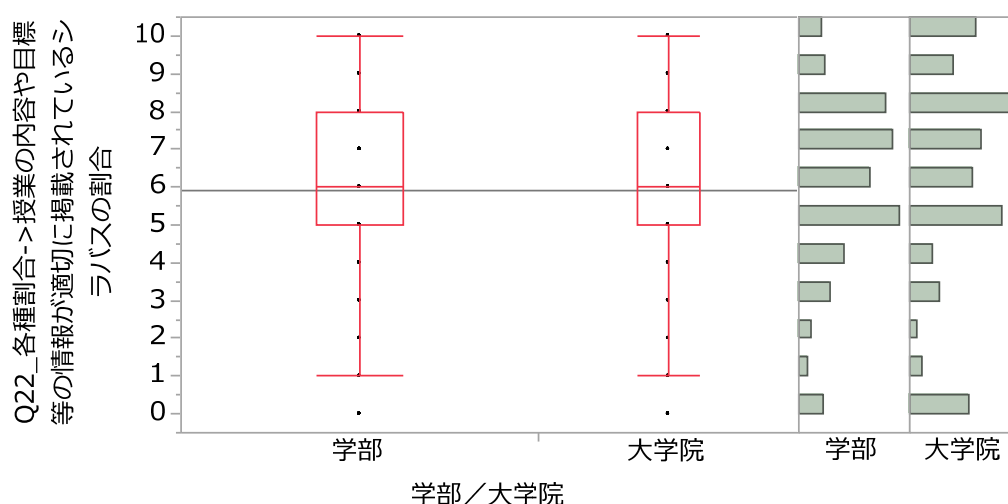
第6章 授業や先生に対する評価

第1節 各種授業や先生の割合 (Q22)

「今年度に履修した授業において、次のような授業／先生が何割くらいあった／いたと思いますか」という問いに対する回答の状況は以下の通りであった。

なお、Moodle の仕様のために回答に「0」割という選択肢を設けることができなかつたため、質問紙上で「システムの都合上、0割の場合は「N/A」を選択してください。絶対に『わからない』の意味で「N/A」を選択しないでください」という指示を行った。この指示を無視して「N/A」を選択したものが若干名いた可能性もあるが、判別が不可能なため全て0割として集計した。

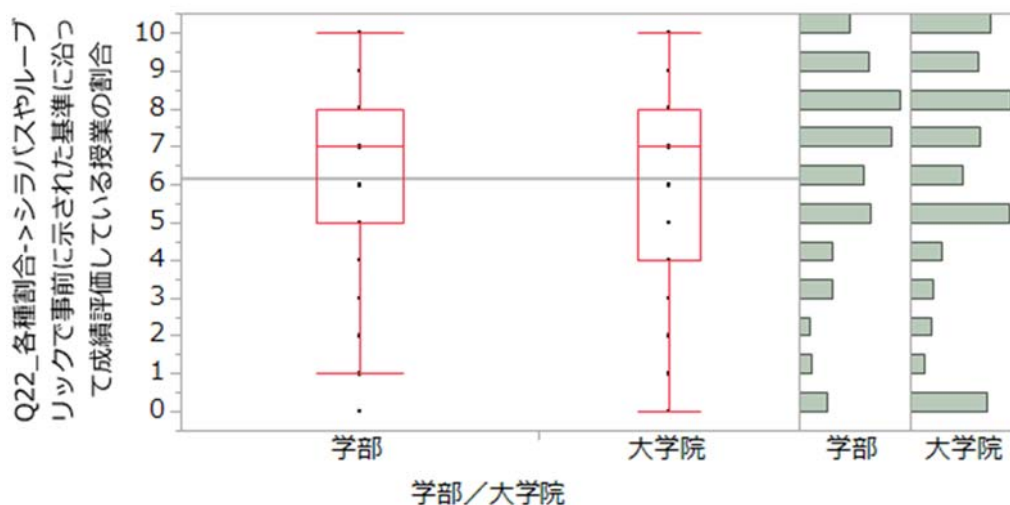
第1項 授業の内容や目標等の情報が適切に掲載されているシラバスの割合



| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 635 | 5.84 | 2.35 | 0.09 | 5.65 | 6.02 |
| 大学院 | 464 | 6.00 | 2.95 | 0.14 | 5.73 | 6.27 |

学生の評価を平均すると、「授業の内容や目標等の情報が適切に掲載されているシラバスの割合」は、学部で5.8割、大学院で6.0割だった。

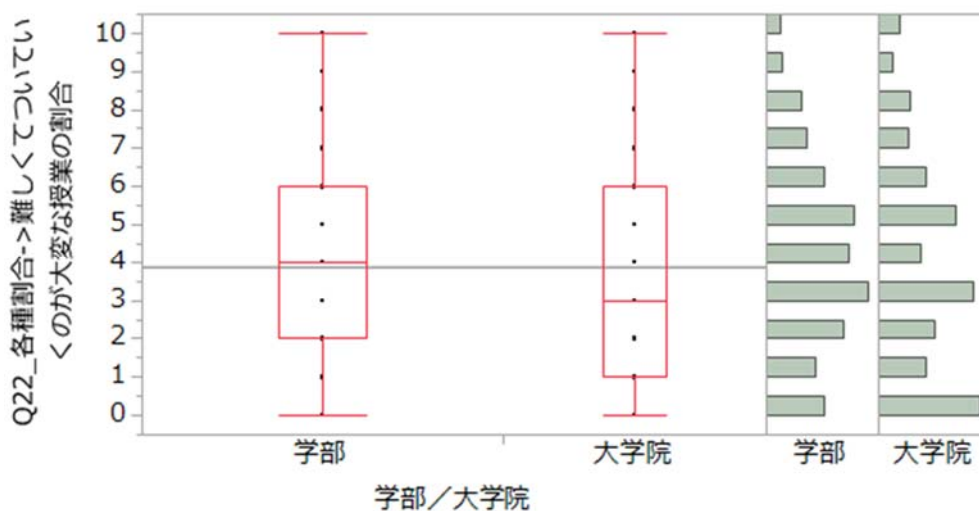
第2項 シラバスやルーブリックで事前に示された基準に沿って成績評価している授業の割合



| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 635 | 6.35 | 2.61 | 0.10 | 6.15 | 6.55 |
| 大学院 | 464 | 5.93 | 3.13 | 0.15 | 5.65 | 6.22 |

学生の評価を平均すると、「シラバスやルーブリックで事前に示された基準に沿って成績評価している授業の割合」は、学部で6.4割、大学院で5.9割だった。

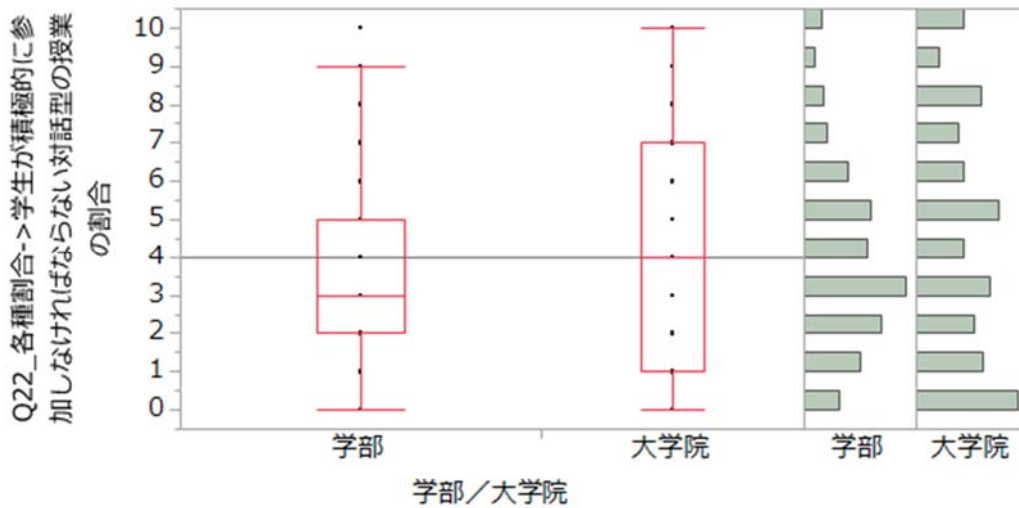
第3項 難しくついていくのが大変な授業の割合



| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 635 | 4.00 | 2.52 | 0.10 | 3.80 | 4.19 |
| 大学院 | 464 | 3.70 | 2.82 | 0.13 | 3.44 | 3.95 |

学生の評価を平均すると、「難しくついていくのが大変な授業の割合」は、学部で 4.0 割、大学院で 3.7 割だった。

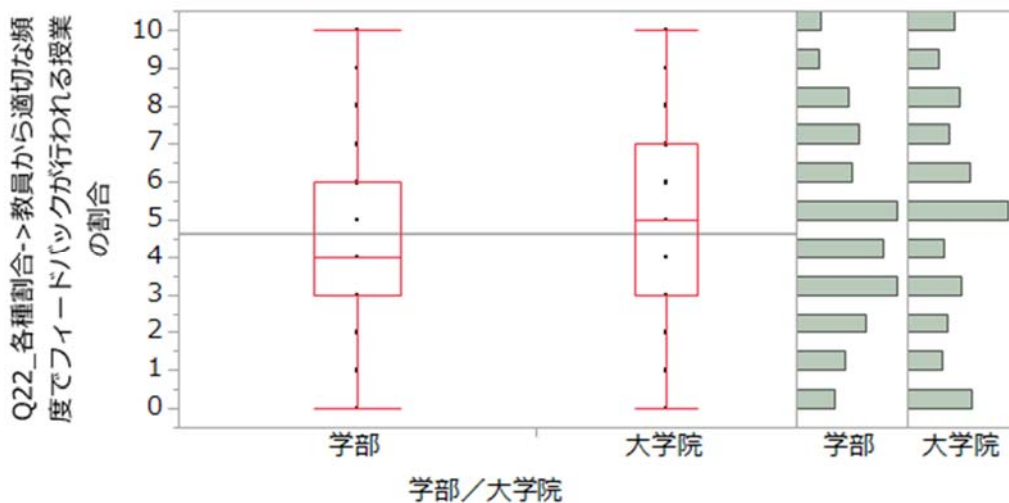
第4項 学生が積極的に参加しなければならない対話型の授業の割合



| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 635 | 3.81 | 2.47 | 0.10 | 3.62 | 4.00 |
| 大学院 | 464 | 4.26 | 3.15 | 0.15 | 3.97 | 4.55 |

学生の評価を平均すると、「学生が積極的に参加しなければならない授業の割合」は、学部で 3.8 割、大学院で 4.3 割だった。

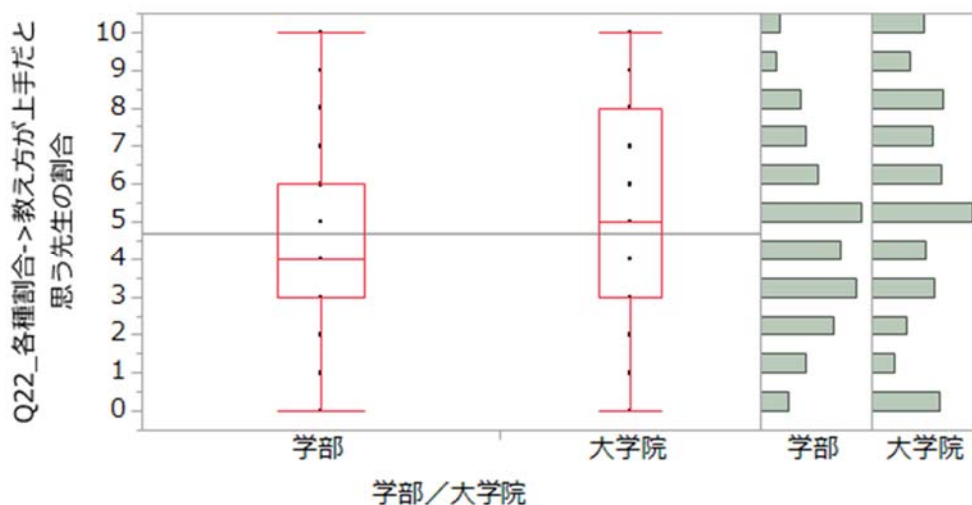
第5項 教員から適切な頻度でフィードバックが行われる授業の割合



| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 635 | 4.49 | 2.59 | 0.10 | 4.29 | 4.69 |
| 大学院 | 464 | 4.88 | 3.02 | 0.14 | 4.60 | 5.15 |

学生の評価を平均すると、「教員から適切な頻度でフィードバックが行われる授業の割合」は、学部で4.5割、大学院で4.9割だった。

第6項 教え方が上手だと思う先生の割合



| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 635 | 4.37 | 2.47 | 0.10 | 4.17 | 4.56 |
| 大学院 | 464 | 5.16 | 2.95 | 0.14 | 4.89 | 5.43 |

学生の評価を平均すると、「教え方が上手だと思う先生の割合」は、学部で4.4割、大学院で5.2割だった。

第2節 カリキュラムや学習環境 (Q23)

「九大のカリキュラムや学習環境などについてどのようにお考えですか」という質問に対して、「あてはまる」から「あてはまらない」までの5段階で評価を求めた回答の分布は、次の通りであった。

「授業科目の相互の関連に配慮したカリキュラムになっている」と考える者は、大学院生のほうがやや多かった。

「学生が積極的に参加しなければならない対話型の授業がもっと多い方がよい」と考える者は、大学院生のほうがやや多かった。

「カリキュラムが過密すぎて自由な学習をする時間を持ちにくい」と考える者は学部生

のほうがやや多かった。

「低年次から専門教育を受けたい」と考える者は学部生のほうが多かった。

「高年次でも教養教育を受けたい」と考える者は大学院生のほうがやや多かった。

| Q23_カリキュラム等への要望等 | 学部 | | 大学院 | |
|------------------------------------|-----|-------|-----|-------|
| 授業科目の相互の関連に配慮したカリキュラムになっている | n | % | n | % |
| あてはまらない | 67 | 10.6% | 41 | 8.8% |
| あまりあてはまらない | 135 | 21.3% | 84 | 18.1% |
| どちらでもない | 239 | 37.6% | 178 | 38.4% |
| ややあてはまる | 167 | 26.3% | 117 | 25.2% |
| あてはまる | 27 | 4.3% | 44 | 9.5% |
| 学生が積極的に参加しなければならない対話型の授業がもっと多い方がよい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 80 | 12.6% | 41 | 8.8% |
| あまりあてはまらない | 177 | 27.9% | 83 | 17.9% |
| どちらでもない | 199 | 31.3% | 178 | 38.4% |
| ややあてはまる | 113 | 17.8% | 115 | 24.8% |
| あてはまる | 66 | 10.4% | 47 | 10.1% |
| カリキュラムが過密すぎて自由な学習をする時間をもちにくい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 68 | 10.7% | 87 | 18.8% |
| あまりあてはまらない | 163 | 25.7% | 125 | 26.9% |
| どちらでもない | 167 | 26.3% | 140 | 30.2% |
| ややあてはまる | 147 | 23.1% | 74 | 15.9% |
| あてはまる | 90 | 14.2% | 38 | 8.2% |
| 低年次からもっと専門教育を受けたい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 34 | 5.4% | 44 | 9.5% |
| あまりあてはまらない | 68 | 10.7% | 66 | 14.2% |
| どちらでもない | 108 | 17.0% | 149 | 32.1% |
| ややあてはまる | 210 | 33.1% | 114 | 24.6% |
| あてはまる | 215 | 33.9% | 91 | 19.6% |
| 高年次でも教養教育を受けたい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 160 | 25.2% | 86 | 18.5% |
| あまりあてはまらない | 163 | 25.7% | 77 | 16.6% |
| どちらでもない | 127 | 20.0% | 136 | 29.3% |
| ややあてはまる | 116 | 18.3% | 103 | 22.2% |
| あてはまる | 69 | 10.9% | 62 | 13.4% |

「(実務家との交流やインターンシップなど) 社会に触れる機会が利用したい」への回答の分布に学部と大学院で有意差は見られなかった。

「留学や研究を目的とした海外渡航を行いたい」と考える者は大学院生のほうがやや多かった。

「キャンパスに24時間利用できる学習施設があれば頻繁に利用したい」と考える者は学部生のほうがやや多かった。

「同じ授業科目で1週間に複数回授業がある方が、週に1回だけよりも学びやすい」への回答の分布に学部と大学院で有意差は見られなかった。

「4学期制（8週完結型）の授業のほうが学びやすい」に「どちらでもない」と答えた者は大学院生のほうが多かった。

| Q23_カリキュラム等への要望等 | 学部 | | 大学院 | |
|--|-----|-------|-----|-------|
| (実務家との交流やインターンシップなど) 社会に触れる機会があれば利用したい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 40 | 6.3% | 31 | 6.7% |
| あまりあてはまらない | 98 | 15.4% | 56 | 12.1% |
| どちらでもない | 169 | 26.6% | 137 | 29.5% |
| ややあてはまる | 199 | 31.3% | 133 | 28.7% |
| あてはまる | 129 | 20.3% | 107 | 23.1% |
| 留学や研究を目的とした海外渡航を行いた | | | | |
| い | n | % | n | % |
| あてはまらない | 116 | 18.3% | 45 | 9.7% |
| あまりあてはまらない | 107 | 16.9% | 59 | 12.7% |
| どちらでもない | 131 | 20.6% | 123 | 26.5% |
| ややあてはまる | 136 | 21.4% | 117 | 25.2% |
| あてはまる | 145 | 22.8% | 120 | 25.9% |
| キャンパスに24時間利用できる学習施設が | | | | |
| あれば頻繁に利用したい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 48 | 7.6% | 52 | 11.2% |
| あまりあてはまらない | 79 | 12.4% | 36 | 7.8% |
| どちらでもない | 95 | 15.0% | 95 | 20.5% |
| ややあてはまる | 143 | 22.5% | 103 | 22.2% |
| あてはまる | 270 | 42.5% | 178 | 38.4% |
| 同じ授業科目で1週間に複数回授業があるほ | | | | |
| うが、週に1回だけよりも学びやすい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 95 | 15.0% | 62 | 13.4% |
| あまりあてはまらない | 139 | 21.9% | 84 | 18.1% |
| どちらでもない | 174 | 27.4% | 156 | 33.6% |
| ややあてはまる | 138 | 21.7% | 97 | 20.9% |
| あてはまる | 89 | 14.0% | 65 | 14.0% |
| 4学期制（8週完結型）の授業の方が学びや | | | | |
| すい | n | % | n | % |
| あてはまらない | 130 | 20.5% | 88 | 19.0% |
| あまりあてはまらない | 118 | 18.6% | 79 | 17.0% |
| どちらでもない | 228 | 35.9% | 206 | 44.4% |
| ややあてはまる | 77 | 12.1% | 56 | 12.1% |
| あてはまる | 82 | 12.9% | 35 | 7.5% |

第3節 4 学期制（8 週完結型）の授業のメリット・デメリット（Q24）

先述のように Q23 では、「4 学期制（8 週完結型）の授業のほうが学びやすい」と思うかどうかを尋ねた。学部でも大学院でも否定的な回答（「あてはまらない」または「あまりあてはまらない」）が約 4 割、「どちらでもない」が約 4 割を占め、肯定的な回答（「あてはまる」「ややあてはまる」）は約 2 割にとどまっていた。

Q24 では、「4 学期制（8 週完結型）の授業のメリット・デメリット等について、あなた自身が感じていることがあれば教えてください」という設問に対する自由記述回答を求めたところ、341 件の回答を得た。以下では Q23 の回答別に代表的な記述を紹介する。なお、全体的に「特になし」「4 学期制の授業を経験したことがないのでわかりません」等の回答も相当数見られた。

「4 学期制（8 週完結）の授業のほうが学びやすい」と思うか（Q23）への 回答別の特徴語（Q24）

| あてはまらない | あまりあてはまらない | どちらでもない | ややあてはまる | あてはまる |
|------------|------------|----------|------------|------------|
| 学期 .210 | 内容 .147 | 科目 .096 | 内容 .142 | 集中 .171 |
| 授業 .202 | 思う .144 | 特に .091 | 知識 .136 | 授業 .138 |
| メリット .163 | 特に .111 | 多い .089 | メリット .132 | メリット .132 |
| デメリット .156 | 学期 .108 | 学べる .073 | 深い .115 | 学習 .131 |
| 内容 .127 | 増える .101 | 取る .069 | デメリット .103 | 時間 .124 |
| 感じる .123 | 感じる .094 | 少ない .061 | テスト .095 | 思う .120 |
| 履修 .115 | 時間 .092 | 忘れる .057 | 学べる .092 | 期間 .119 |
| 学生 .106 | 週 .083 | 様々 .056 | 浅い .090 | デメリット .113 |
| 週 .105 | 短い .082 | 回数 .038 | 特に .089 | テスト .111 |
| 講義 .094 | 専門 .081 | 定着 .038 | 少ない .086 | 講義 .101 |

数値は Jaccard 係数。

「あてはまらない」と回答したグループでは、4「学期」制では「授業」の「履修」自体が難しい、「学生」にとって都合がよくない、等の記述が比較的目立った。

先生も窮屈であろうし、学生も適度に休講がなければ図書館に籠ったり出来ない。大学の授業など、セメスターなら 13 回もやれば十分だと思うのだが・・・。
(学部 1 年、文系)

現状では 4 学期制の授業と 2 学期制の授業が混ざっているため、少しだけの期間で時間割が被るなど非常に履修がしづらい。(学部 4 年、理系)

メリットとしては、4 学期制の方が講義の範囲が狭まることで必要な勉強量が減り、単位がとりやすくなると思う。デメリットとしては、時間が少なすぎてどの講義も深く掘り下げられなくなることや、学生の理解具合に応じた講義をしづらく

なること、対話型の授業がしづらくなることがある。(学部4年、文系)

8割以上の科目が4学期制になってくれないと、履修登録がやや煩雑。後半の科目は、初回の授業を見て受講の有無を見極めることができない点が今ひとつ。(専門職学位課程2年、文系)

「あまりあてはまらない」と回答したグループでは、「短い」「学期」が「増える」こととなり「内容」が薄まる、「専門」教育ではメリット(場合によってはデメリットも)見出しにくい、等の記述が比較的目立った。

たった8週で専門科目の学習が終えられるとは思えない。内容が薄くなる。(学部3年、文系)

期末考査しかなかった授業において、中間考査が増えるという点だけなら別に問題はないのですが、研究室の演出や実習のように、一人ひとり発表準備やそのフィードバックに時間を要する授業においては、4学期制における1学期という短い期間に、全員が全員、発表を終えてしまう事は、少なくとも私の研究室においてはほぼ不可能です。現在のように、期間[基幹]教育程度であれば、スパンの短い4学期制でも問題はないのですが、専門科目、特に研究室の授業においてはそうはいかないと思います。(学部3年、文系)

関連があるのは、教養課程の学生のみ。専門教育の比重が増えると、メリットもデメリットも関係ないと思う。(学部4年、理系)

学期が増えることで、最初のガイダンスで授業を行わない日が増えるため、効率が下がると思う。ただし受けることができる授業の種類は増える。浅く広くなるイメージ。(博士2年、理系)

「どちらでもない」と回答したグループでは、様々な「科目」を学べるのはよい、週当たりの授業の「回数」が「多い」ので短期間に詰め込むため「忘れ」やすい、あるいは逆に前回の授業内容を「忘れ」る前に次の授業を受けられる、等の記述が散見された。

メリット 一週間の同じ授業の回数が増えるためしっかりと勉強していなければ、単位を落とす可能性がある。 デメリット 学ぶ期間が短いため、すぐに忘れてしまう。(学部3年、理系)

メリットとしては、サイクルが短い分、前回の授業内容を忘れづらいということが挙げられると思います。デメリットとしては、復習等が追いつかなくなる恐れがあるということが挙げられると思います。(学部4年、理系)

長所:様々な科目を学ぶことができる 短所:科目相互間の関連がなく、つまみ食いのようになる。(専門職学位課程2年、文系)

「ややあてはまる」と回答したグループでは、「深い」「内容」を学ぶことが難しくなり「浅い」「知識」しか身につかなくなるのではないかと、また「テスト」勉強はしやすいが様々な弊害も出てくる、等の記述がやや目立った。

授業の内容が薄くなるというデメリットがある。(学部1年、文系)

授業によっては、深く内容にさわることができなくなるので、授業の質が下がる。(中略)ひろく浅く様々なことを学ぶことができる、その分他の授業との関連を見出しやすくなる。(学部3年、理系)

4学期制だとテストが分散されるため、テスト勉強時に量的に勉強しやすい(学部生)(学部4年、医歯薬系)

さまざまな授業が取れる、マンネリ化しない テストが中途半端な時期にある、浅くしか学べない(学部1年、理系)

メリット:幅広い分野の授業を受けることができること。自分にあった時間割りを組むことができること。デメリット:自分が深く学びたい分野の授業が浅い知識となってしまうこと。テスト期間が多く、だらける生徒[原文ママ]がでてくる。(修士1年、医歯薬系)

「あてはまる」と回答したグループでは、短「期間」で「集中」的に「学習」すること、「授業」開始から「テスト」までの間が短いこと、「時間」を有効に使える等の記述が比較的に目立った。

メリット:テストやレポートのために学習内容を見直す回数が多く[な]る。学習の計画が立てやすい。ひとつのテストの範囲が比較的長くないので、多くの講義を履修してもテストでひどい成績を取らずに済みそう。デメリット:大学レベルの学習が2か月で自分に浸透するのか疑問がある。(学部2年、文系)

学期末にテストを10何個も受けなければいけないなどのテストの過密日程が解消される。したがって、1科目あたりは短期で終わってしまうが、その科目にかけられる時間が増える。授業進度が速いため、一度詰まると一気に置いていかれる（学部3年、理系）

集中的に学習ができ、学問全体のイメージが掴みやすい。1学期のテストの割合が減り勉強しやすくなるかも。（修士2年、理系）

科目によってメリット、デメリットが存在すると思います。例えば数式や概念そのものが学生にとって目新しい講義は、短期で学習するには困難ですが、基礎的な科目や短期間に覚えて行く必要のある科目に関しては有効だと思われます。（博士3年、医歯薬系）

メリットは、2か月から3か月で授業が終わるので自分の学習に時間が使えること。デメリットは、例えば、本来6か月かけて行う授業では、半分の期間で教えないといけないので、学習の定着度が低くなってしまうこと。（修士2年、理系）

第7章 教養教育、専門教育、教育全体に関する評価

第1節 教育に関する評価 (Q25)

Q25 では、「学年や所属する課程のため、評価することが難しい場合は『N/A』を選択してください」と指示した上で、九州大学の教養教育、専門教育、教育全体について5段階で評価を求めた。

| Q25_教育に関する評価 | | | | | Q25_教育に関する評価 | | | | |
|------------------|-----|-------|-----|-------|------------------|-----|-------|-----|-------|
| 学部 | | 大学院 | | 学部 | | 大学院 | | | |
| | n | % | n | % | | n | % | n | % |
| 教養教育が充実している | | | | | 専門教育が充実している | | | | |
| そう思わない | 33 | 5.4% | 28 | 7.2% | そう思わない | 27 | 4.8% | 20 | 4.6% |
| あまりそう思わない | 105 | 17.3% | 58 | 14.9% | あまりそう思わない | 60 | 10.6% | 27 | 6.2% |
| どちらでもない | 184 | 30.3% | 133 | 34.2% | どちらでもない | 137 | 24.1% | 92 | 21.2% |
| ややそう思う | 228 | 37.5% | 121 | 31.1% | ややそう思う | 234 | 41.2% | 187 | 43.2% |
| そう思う | 58 | 9.5% | 49 | 12.6% | そう思う | 110 | 19.4% | 107 | 24.7% |
| 教養教育に知的好奇心を喚起された | | | | | 専門教育に知的好奇心を喚起された | | | | |
| そう思わない | 67 | 10.9% | 32 | 8.2% | そう思わない | 19 | 3.3% | 18 | 4.2% |
| あまりそう思わない | 143 | 23.3% | 67 | 17.1% | あまりそう思わない | 54 | 9.5% | 23 | 5.3% |
| どちらでもない | 171 | 27.8% | 112 | 28.6% | どちらでもない | 125 | 22.0% | 85 | 19.6% |
| ややそう思う | 170 | 27.6% | 122 | 31.2% | ややそう思う | 242 | 42.5% | 194 | 44.8% |
| そう思う | 64 | 10.4% | 58 | 14.8% | そう思う | 129 | 22.7% | 113 | 26.1% |
| 教養教育に満足している | | | | | 専門教育に満足している | | | | |
| そう思わない | 79 | 12.8% | 37 | 9.5% | そう思わない | 30 | 5.3% | 27 | 6.2% |
| あまりそう思わない | 140 | 22.8% | 60 | 15.4% | あまりそう思わない | 72 | 12.7% | 33 | 7.6% |
| どちらでもない | 191 | 31.1% | 141 | 36.2% | どちらでもない | 145 | 25.6% | 101 | 23.3% |
| ややそう思う | 160 | 26.0% | 106 | 27.2% | ややそう思う | 218 | 38.5% | 177 | 40.8% |
| そう思う | 45 | 7.3% | 45 | 11.6% | そう思う | 101 | 17.8% | 96 | 22.1% |

教養教育の充実度について、学部は 47.0%、大学院は 43.7%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。学部と大学院の回答傾向に有意な差はなかった。

教養教育による知的好奇心の喚起度について、学部より大学院で肯定的な回答がやや多かった。学部では 38.0%、大学院では 46.0%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。

教養教育の満足度について、学部より大学院のほうが肯定的な回答がやや多かった。学部では 33.3%、大学院では 38.8%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。

専門教育の充実度について、学部より大学院のほうが肯定的な回答がやや多かった。学部では 60.6%、大学院では 67.9%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。

専門教育による知的好奇心の喚起度について、学部で 65.2%、大学院では 70.9%「そう思う」または「ややそう思う」と回答したが、学部と大学院の回答傾向に有意な差はなかった。

専門教育の満足度について、学部より大学院のほうが肯定的な回答がやや多かった。学部では 56.3%、大学院では 62.9%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。

| Q25_教育に関する評価 | 学部 | | 大学院 | |
|------------------|-----|-------|-----|-------|
| | n | % | n | % |
| 九大の教育に全体的に満足している | | | | |
| そう思わない | 43 | 6.9% | 27 | 6.2% |
| あまりそう思わない | 102 | 16.5% | 48 | 11.0% |
| どちらでもない | 222 | 35.8% | 113 | 25.9% |
| ややそう思う | 211 | 34.0% | 181 | 41.5% |
| そう思う | 42 | 6.8% | 67 | 15.4% |

九大の教育に対する全体的な満足度について、学部より大学院のほうが肯定的な回答が多かった。学部では 40.8%、大学院では 56.9%が「そう思う」または「ややそう思う」と回答した。

第2節 教育について良く評価している点 (Q26)

九大の教育について「よろしければ具体的にどんな点を良く評価しているのかを、概ね 200 字以内を目安に教えてください」という設問に対して、317 件の自由記述回答が寄せられた。以下では、サンプルサイズが小さい専門職学位課程と非正規課程の回答を除いて、学位課程別に代表的な記述を抜粋する。

学位課程別の教育を良く評価している理由 (Q26) の特徴語

| 学部 | | 修士 | | 博士 | |
|----|------|-----|------|------|------|
| 専門 | .288 | 研究 | .135 | 教員 | .117 |
| 授業 | .261 | 先生 | .112 | 役に立つ | .103 |
| 科目 | .259 | 内容 | .102 | 講義 | .100 |
| 教育 | .248 | 知識 | .073 | 話 | .100 |
| 多い | .184 | 持つ | .071 | 指導 | .091 |
| 分野 | .161 | 教える | .068 | 授業 | .087 |
| 自分 | .152 | 感じる | .065 | 学習 | .085 |
| 学ぶ | .139 | 社会 | .061 | 教える | .082 |
| 思う | .122 | 指導 | .060 | 様々 | .080 |
| 学部 | .117 | 幅広い | .057 | 環境 | .075 |

数値は Jaccard 係数。

学士課程では、「専門」「教育」「科目」の「授業」について良く評価する記述が目立った。ただし、専門以外の「分野」について学ぶことを評価する意見も散見された。

専門教育に関しては大変優秀な教員の方々が懇切丁寧にわかりやすく教えてくださるので良い（学部1年、理系）

ご自身の専門分野の授業をされる先生の話が面白い。先生の人生や分野選択の経緯など、先生の人格や思考に触れることで自分の考えを深められる授業が大学生の「講義」らしくてよい。（学部3年、理系）

専門教育カリキュラムに沿ってしっかり学び、定期テスト対策や日々の授業、小テストなどからコツコツと学習を進めていけば、国家試験対策も兼ねている。問題が解けるようになるだけでなく知的好奇心を満たしてくれる授業なども多く、教授が直接授業してくれる科目もあり、学習し甲斐を感じた。（学部6年、医歯薬系）

自分の専門以外の分野で興味がある学問を、少しだけでよいので学んでみたいという場合は、基幹教育のシステムは大変素晴らしいものであると思う（学部2年、文系）

基幹：時間割が許す限り興味関心のある授業を受けられ、知識を拡張できるので、社会を俯瞰しやすくなる。専攻：授業の順番がその学問の歴史順になっていて、時代体系化が可能になる。（理系、学部2年）

修士課程では、「研究」者として確かな実力のある「先生」から充実した「内容」の教育・指導を受けられること等を良く評価する記述が目立った。

先生方の専門性の高さが伝わるアドバイス、指導があり、もっと努力をしなければと感じます。（修士1年、文系）

世界の最先端の研究をしている先生方から、基礎から応用まで幅広く授業をして頂ける点。（修士2年、理系）

専門教育においては、複数のある程度幅のある科目から選択でき、自分の興味のある科目を履修できているため満足している。また、授業内容に関しても、他の分野における実験アプローチや思考のプロセスを、先生方が真剣に熱意を持って説

明して下さっていると感じており、大変勉強になっている。(修士2年、医歯薬系)

専門教育では、その領域の中の、多様な専門分野を持った先生方からのご意見がいただけるところがとても良いと感じています。(修士2年、文系)

博士課程では、「教員」が「講義」で「役に立つ」「話」をしてくれる、適切な「指導」を行ってくれること等を良く評価する記述が目立った。

主指導教員・副指導教員ともに、学生が最終的に博士論文を執筆できるように適切に指導していただける点は大変評価している。(博士1年、文系)

大学院の講義は土木業界の実態を踏まえたものであり、社会に出た時には役に立つと考えられる。(博士1年、工学系)

専門科目・教養科目ともに教授や准教授といった専門の先生が講義をして下さったため、この授業はこんな点で役に立つ・面白い、という寄り道的な話が楽しく、勉強の意欲が刺激されたことを覚えています。(博士1年、医歯薬系)

第3節 教育について悪く評価している点 (Q27)

九大の教育について「よろしければ具体的にどんな点を悪く評価しているのかを、概ね200字以内を目安に教えてください」という設問に対して、356件の自由記述回答が寄せられた。以下では、サンプルサイズが小さい専門職学位課程と非正規課程の回答を除いて、学位課程別に代表的な記述を抜粋する。

学位課程別に教育を悪く評価している理由 (Q27) の特徴語

| 学部 | | 修士 | | 博士 | |
|-----|------|-----|------|-----|------|
| 授業 | .379 | 学部 | .119 | 感じる | .152 |
| 教育 | .302 | 大学院 | .114 | 講義 | .145 |
| 科目 | .263 | 教員 | .108 | 研究 | .100 |
| 専門 | .235 | 少ない | .094 | 教員 | .095 |
| 思う | .203 | 研究 | .091 | 悪い | .091 |
| 基幹 | .192 | 特に | .090 | 多い | .089 |
| 教養 | .171 | 大学 | .087 | 向上 | .088 |
| 学生 | .155 | 時代 | .067 | 専門 | .087 |
| 受ける | .137 | 年次 | .065 | 学生 | .086 |
| 学ぶ | .125 | 学習 | .065 | 間 | .086 |

数値は Jaccard 係数。

学士課程では、「基幹」または「教養」「教育」の間に「専門」の「授業」「科目」を学べない等のことを悪く評価する記述が目立った。

教養科目を学習すること自体はいいのですが、(中略) 今何を自分がしているのかわからなくなっています。毎日学校に行って興味のない授業を受けているとモチベーションが全く上がらず、専攻にたいするやる気もそがれてきているように思います。受験頑張って、高いお金出して、親元離れて自分がやりたかった勉強はこんなことなのか? という思いに日々さいなまれています。(学部1年、文系)

一年生の基幹教育は高校時代にしっかり学習した生徒にとってはすごく退屈で、専門的なことを学びに来たはずなのに、なんで大学に入ったのにこんなことをしているのだろうと悩む時期が多々あった(学部2年、理系)

専門教育は、大変内容が難しく、試験での評価も厳しく、2年次から始めるのは学生にとって酷であると思う(学部2年、文系)

1年次の教養教育は、科目によって先生の力の入れ具合に差があった。第二言語を例にすると、評価が厳しすぎる言語がある一方で、甘すぎる言語があった。生徒の好みに合わせて選択すれば良いのであろうが、GPAを気にするあまり、本当に学びたいものを学べないのはどうかと思う。(学部3年、医歯薬系)

基幹教育の科目が専門分野にほとんど活かされませんでした。むしろそこに時間を割いたせいで専門分野を学ぶのが遅れ、他大学に比べて遅れをとってしまうという現状があるように思います。(学部4年、理系)

修士課程では、「大学院」に進学し「研究」室に配属された現在から「学部」「時代」のことを振り返りつつ、「教員」が関係する様々な不満や、低「年次」の専門科目が「少ない」こと等を悪く評価する記述が散見された。

分野によっては専門の教員が少なすぎる(修士1年、文系)

授業に臨む私自身の姿勢にも問題があるとは思いますが、教員が研究者であるという利点が上手く活用された、知的好奇心を刺激されるような内容であればよかったなと思います。また多くが講義式であり、対話や討論などのコミュニケーションをとる機会が少ない点が残念だなと思いました。(修士2年、理系)

教員の数にも限りがあるのだろうが、もっと少人数のグループワークなどを増やしてほしい（修士2年、医歯薬系）

大学院にあってよく思うのが学部時代に授業に真面目に取り組んでおけばよかったということです。しかし学部生は初めての大学でそんなことわからないのもっと教員側が将来を見据えさせて喚起していくことが大切だと思います。（修士2年、理系）

低年次のカリキュラムに専門科目が少なく、専門との関連がいまいちわからない科目ばかりだったため、大学入学後に一度モチベーションが下がってしまった。低年次から専門科目の授業があると良いと感じた。（修士2年、理系）

博士課程では、「講義」「研究」「教員」に関係する多様な問題を悪く評価する記述が目立った。ただし、修士課程と同様、こうした記述には学部時代の教育を回顧しているものがかかり存在していた。

講師からの一方通行の講義が多い。双方向型の講義がもう少し多くても良い。（博士1年、理系）

キャンパスの都合で専門外講義を所得〔習得？〕する機会がほとんどない（博士3年、理系）

教養教育は単位を取ることが優先される印象。興味のある講義が複数あっても単位の取りやすい授業を履修してしまうこともある。（博士4年、医歯薬系）

九州大学は教養教育が物足りない。ディスカッションをするような対話型の授業がもう少しあってもいいと思う。でもそれは教員方の研究時間を奪う可能性が大いにあるのでなかなか導入はむずかしそう。（博士3年、医歯薬系）

他学府との交流が少ないため、研究の幅が広がりにくい環境に思う。（博士3年、文系）

教員同士の指導の仕方が一致せず、板挟みになる（博士3年、文系）

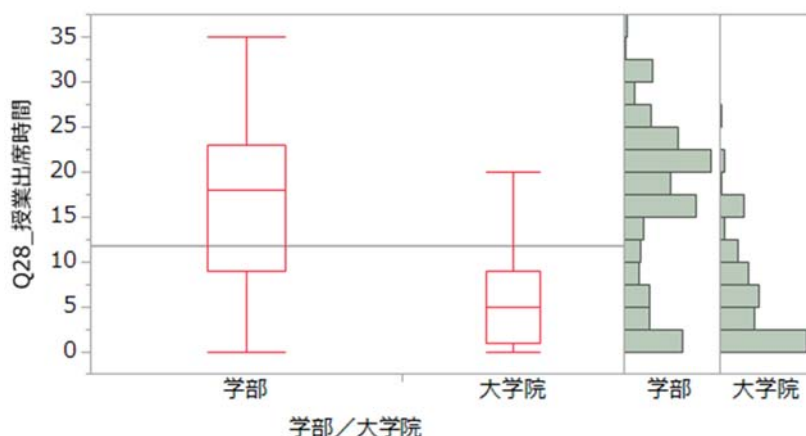
第8章 学習等の活動に費やす時間

第1節 各種時間の使い方の分布状況（1週間当たり）

Q28 から Q35 までは「授業期間中の典型的な一週間に」、Q36 と Q37 では「夏休み・冬休み・春休み中の典型的な一週間に」各活動に費やした時間数を、小数点以下を四捨五入した整数（2桁以下）で回答することを求めた。

明らかに異常な回答が散見されたので、次のように欠損値として扱った。まず、授業期間中の時価の使い方に関する全変数の合計を7で割った（1日当たりに直した）変数を作成し降順にソートして、これが24（時間/日）を上回っている場合は、元の8変数の値をすべて欠損値とした。また、明らかに不真面目な回答（すべての時間がほとんど同じなど）だった9人についても時間に関する変数をすべて欠損値とした。個別の変数にも以下に記すように欠損値を設定した。

第1項 授業や（授業としての）実験に出席している時間（Q28）

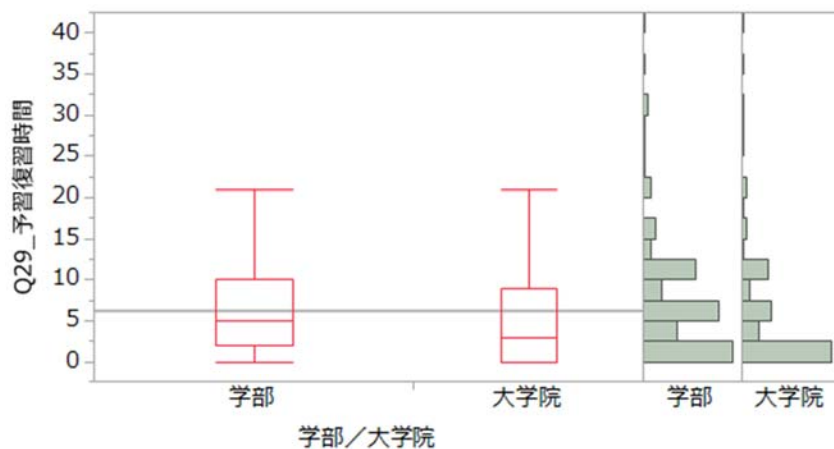


| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 1.4 | 9 | 18 | 23 | 26.6 | 35 |
| 大学院 | 0 | 0 | 1 | 5 | 9 | 15 | 35 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 613 | 16.1 | 9.0 | 0.4 | 15.3 | 16.8 |
| 大学院 | 435 | 5.9 | 5.8 | 0.3 | 5.3 | 6.4 |

0 以上 38 以下（1.5 時間×5 コマ×5 日を切り上げ）のみ有効とした。

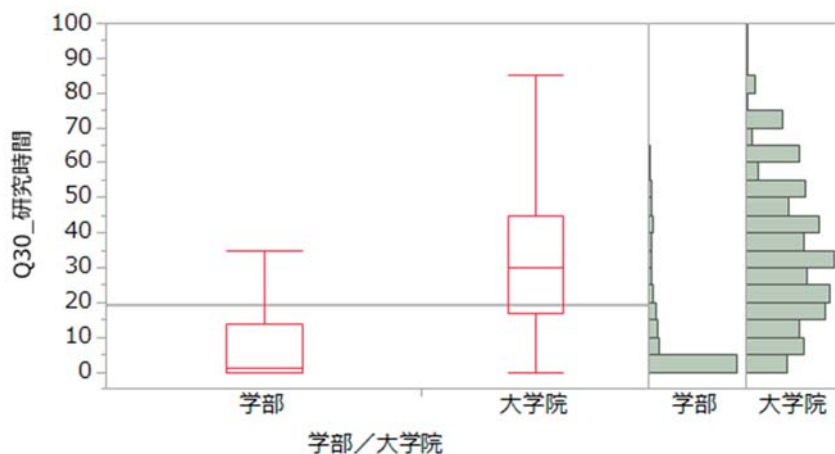
第2項 授業・実験の準備や予習・復習に充てている時間 (Q29)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 2 | 5 | 10 | 15 | 40 |
| 大学院 | 0 | 0 | 0 | 3 | 9 | 14 | 42 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 620 | 6.8 | 6.6 | 0.3 | 6.2 | 7.3 |
| 大学院 | 445 | 5.5 | 7.2 | 0.3 | 4.8 | 6.2 |

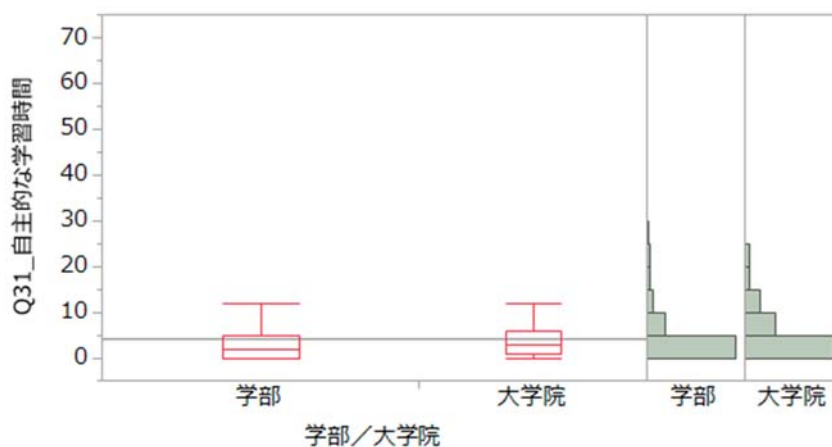
第3項 研究 (学位論文の執筆やそのための資料収集、実験等) に充てている時間 (Q30)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 0 | 1 | 14 | 40 | 85 |
| 大学院 | 0 | 7 | 17 | 30 | 45 | 60 | 99 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 620 | 10.0 | 16.6 | 0.7 | 8.7 | 11.4 |
| 大学院 | 445 | 32.2 | 19.9 | 0.9 | 30.3 | 34.1 |

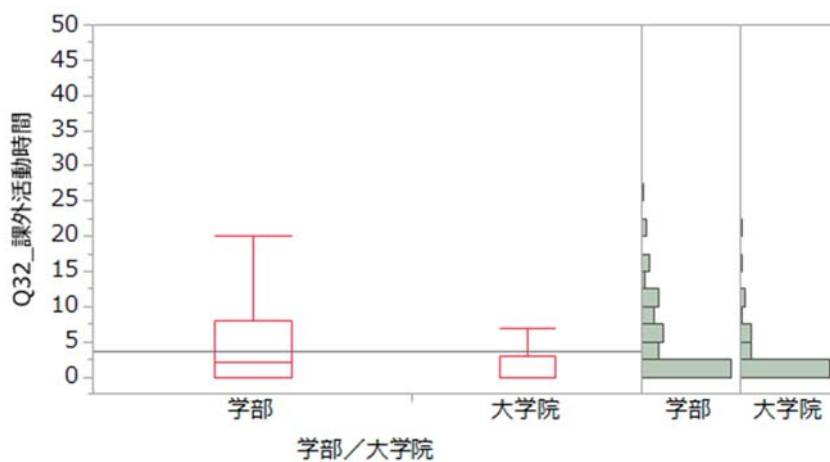
第4項 (大学での授業や研究とは直接関係ない) 自主的な学習に充てている時間 (Q31)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 0 | 2 | 5 | 10 | 56 |
| 大学院 | 0 | 0 | 1 | 3 | 6 | 10 | 70 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 620 | 3.8 | 6.2 | 0.3 | 3.4 | 4.3 |
| 大学院 | 445 | 5.0 | 6.5 | 0.3 | 4.4 | 5.6 |

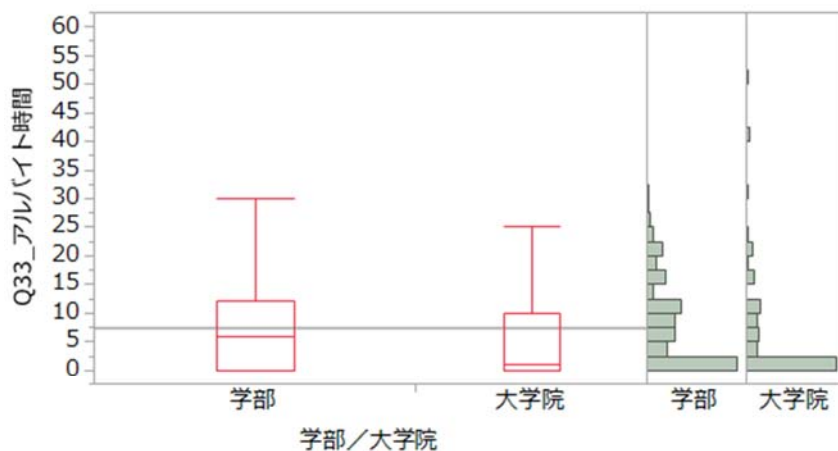
第5項 課外活動に充てている時間 (Q32)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 0 | 2 | 8 | 13 | 48 |
| 大学院 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 6 | 40 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 620 | 4.8 | 6.5 | 0.3 | 4.2 | 5.3 |
| 大学院 | 445 | 2.1 | 4.4 | 0.2 | 1.7 | 2.5 |

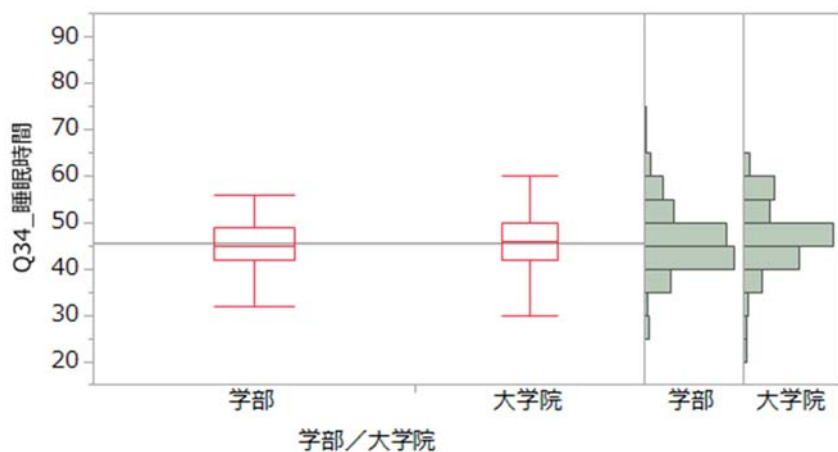
第6項 アルバイトに充てている時間 (Q33)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 0 | 6 | 12 | 20 | 54 |
| 大学院 | 0 | 0 | 0 | 1 | 10 | 20 | 60 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 620 | 8.0 | 8.2 | 0.3 | 7.3 | 8.6 |
| 大学院 | 445 | 6.7 | 10.8 | 0.5 | 5.6 | 7.7 |

第7項 睡眠に充てている時間 (Q34)

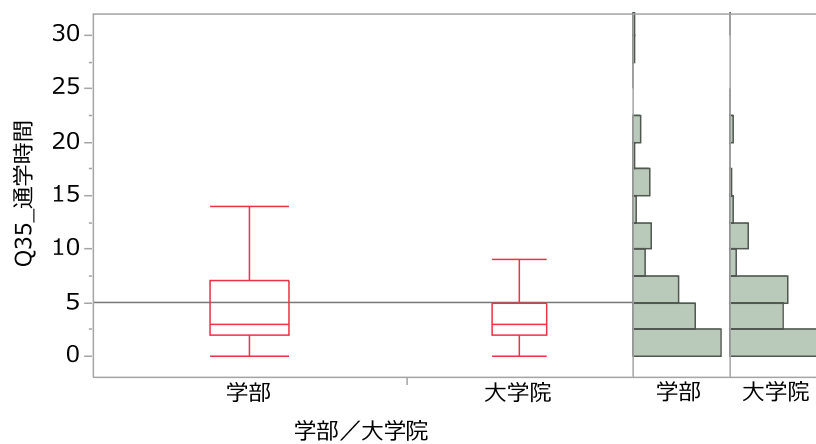


| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 18 | 35 | 42 | 45 | 49 | 56 | 93 |
| 大学院 | 20 | 35 | 42 | 46 | 50 | 56 | 70 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 574 | 45.3 | 7.7 | 0.3 | 44.6 | 45.9 |
| 大学院 | 410 | 46.1 | 7.4 | 0.4 | 45.4 | 46.8 |

睡眠時間は 18 以上 99 以下のみ有効とした。

第8項 通学（往復）に充てている時間（Q35）

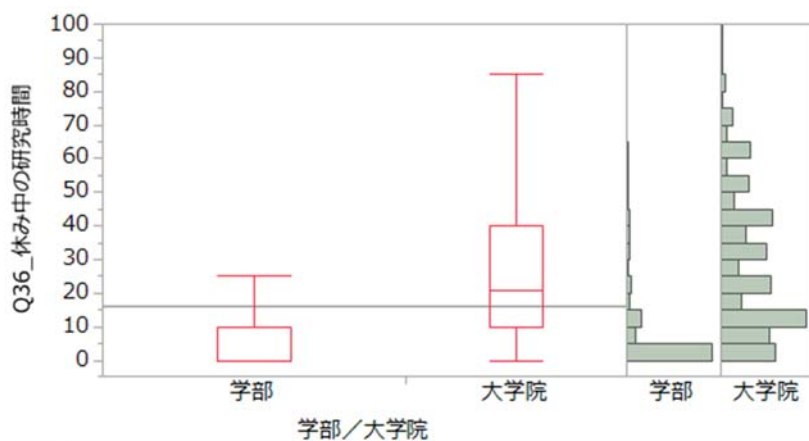


| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 1 | 2 | 3 | 7 | 15 | 30 |
| 大学院 | 0 | 1 | 2 | 3 | 5 | 10 | 30 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 614 | 5.5 | 5.3 | 0.2 | 5.1 | 5.9 |
| 大学院 | 444 | 4.4 | 3.9 | 0.2 | 4.0 | 4.7 |

通学時間は、0 以上 30 以下（片道 3 時間×5 日）のみ有効とした。

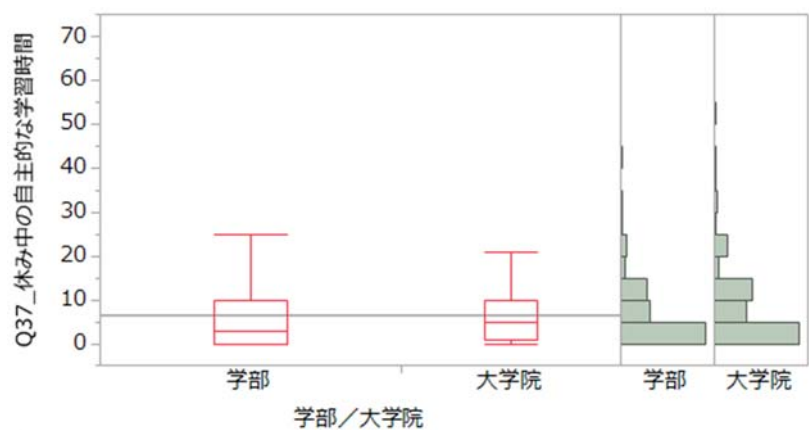
第9項 夏休み・冬休み・春休み中に研究(学位論文の執筆やそのための資料収集、実験等)に充てている時間(Q36)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 0 | 0 | 10 | 30 | 90 |
| 大学院 | 0 | 3 | 10 | 21 | 40 | 60 | 99 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|------|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 631 | 8.2 | 14.8 | 0.6 | 7.0 | 9.3 |
| 大学院 | 461 | 27.1 | 21.1 | 1.0 | 25.1 | 29.0 |

第10項 第9項 夏休み・冬休み・春休み中に(大学での授業や研究とは直接関係ない)自主的な学習に充てている時間(Q37)



| 分位点 | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 水準 | 最小値 | 10% | 25% | 中央値 | 75% | 90% | 最大値 |
| 学部 | 0 | 0 | 0 | 3 | 10 | 15 | 70 |
| 大学院 | 0 | 0 | 1 | 5 | 10 | 20 | 70 |

| 平均と標準偏差 | | | | | | |
|---------|-----|-----|------|---------|-------|-------|
| 水準 | 数 | 平均 | 標準偏差 | 平均の標準誤差 | 下側95% | 上側95% |
| 学部 | 631 | 5.9 | 8.0 | 0.3 | 5.3 | 6.5 |
| 大学院 | 461 | 7.6 | 9.5 | 0.4 | 6.7 | 8.4 |

第2節 経済状況別の学習時間等

一般に、学習時間を確保できない理由として、経済的な事情のために長時間アルバイトを行わなければならないことが挙げられやすい。確かに、経済状況（Q13）別に各種時間の使い方を集計すると、例えば学部生がアルバイトに費やす時間は「(学業継続より)小遣い確保のためにアルバイトする必要がある」者で9.5時間なのに対して、「しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい」者で13.2時間と長い。しかし、授業外学習の合計時間（予習復習+研究+自主的な学習）も、「(学業継続より)小遣い確保のためにアルバイトする必要がある」者が18.4時間なのに対して、「しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい」者が23.9時間と長い。このような傾向は、授業期間外に研究や自主的な学習に費やす時間にも表れている。また、大学院生でも同様の傾向がみられる。この結果は、いわゆる苦学生の方が（アルバイトも長時間しているのに）学習時間が長いことを示唆する。

1週間当たりの各時間の平均値

| 学部・大学院 | Q13_経済状況 | n | 授業期間中 | | | | | | | 授業期間外 | | | |
|--------|--------------------------------|------|-------|------|--------|--------|--------|------|-------|-------|------|--------|--------|
| | | | 授業出席 | 予習復習 | 研究的な学習 | 自主的な学習 | 授業外学習計 | 課外活動 | アルバイト | 睡眠 | 通学 | 自主的な学習 | 研究的な学習 |
| 学部 | しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい | 83 | 16.0 | 7.0 | 12.0 | 4.9 | 23.9 | 4.8 | 13.2 | 43.7 | 5.7 | 13.2 | 6.9 |
| | (学業継続より)小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある | 341 | 16.2 | 6.2 | 9.0 | 3.2 | 18.4 | 5.0 | 9.5 | 44.7 | 5.5 | 6.5 | 4.9 |
| | アルバイトをする必要があまりない | 205 | 15.7 | 7.6 | 10.7 | 4.3 | 22.6 | 4.3 | 3.4 | 47.0 | 4.9 | 8.6 | 6.8 |
| | 社会人学生で収入があるので学業継続に関して経済的支障はない | 6 | 21.0 | 11.2 | 21.6 | 8.4 | 41.2 | 5.4 | 6.6 | 47.6 | 4.4 | 20.4 | 16.8 |
| | 合計 | 635 | 16.1 | 6.8 | 10.0 | 3.8 | 20.6 | 4.8 | 8.0 | 45.3 | 5.3 | 8.2 | 5.9 |
| 大学院 | しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい | 67 | 6.3 | 6.6 | 32.8 | 6.0 | 45.4 | 2.1 | 11.1 | 45.0 | 4.9 | 33.2 | 9.0 |
| | (学業継続より)小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある | 159 | 6.6 | 6.1 | 31.9 | 4.4 | 42.4 | 2.4 | 7.3 | 47.3 | 4.6 | 25.1 | 7.4 |
| | アルバイトをする必要があまりない | 203 | 5.7 | 5.0 | 35.2 | 5.1 | 45.3 | 1.9 | 1.0 | 46.6 | 4.0 | 28.4 | 7.2 |
| | 社会人学生で収入があるので学業継続に関して経済的支障はない | 35 | 3.1 | 4.0 | 15.5 | 4.8 | 24.3 | 1.9 | 27.9 | 42.1 | 3.7 | 16.4 | 7.8 |
| | 合計 | 464 | 5.9 | 5.5 | 32.2 | 5.0 | 42.7 | 2.1 | 6.7 | 46.3 | 4.3 | 27.1 | 7.6 |
| 合計 | 1099 | 11.8 | 6.2 | 19.3 | 4.3 | 29.8 | 3.6 | 7.4 | 45.7 | 4.9 | 16.1 | 6.6 | |

nは経済状況のもの。各時間のnは欠損値の数が違うためそれぞれ異なる。

前ページと同様の集計を、外れ値の影響を受けやすい平均値ではなく、中央値で行った場合でも、「しっかりとアルバイトしないと学業継続が難しい」学生の授業外における学習時間が長いという傾向がみられる。

1週間当たりの各時間の中央値

| 学部・大学院 | Q13_経済状況 | n | 授業期間中 | | | | | | | 授業期間外 | | | |
|--------|--------------------------------|------|-------|------|--------|--------|--------|------|-------|-------|------|--------|--------|
| | | | 授業出席 | 予習復習 | 研究的な学習 | 自主的な学習 | 授業外学習計 | 課外活動 | アルバイト | 睡眠 | 通学 | 研究的な学習 | 自主的な学習 |
| 学部 | しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい | 83 | 17.0 | 5.0 | 5.0 | 3.0 | 13.0 | 2.0 | 12.0 | 42.0 | 3.0 | 5.0 | 5.0 |
| | (学業継続より)小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある | 341 | 18.0 | 5.0 | 0.0 | 2.0 | 7.0 | 3.0 | 9.0 | 42.0 | 4.0 | 0.0 | 2.0 |
| | アルバイトをする必要があまりない | 205 | 18.0 | 5.0 | 0.0 | 2.0 | 7.0 | 1.0 | 0.0 | 46.0 | 3.0 | 0.0 | 4.0 |
| | 社会人学生で収入があるので学業継続に関して経済的支障はない | 6 | 23.0 | 10.0 | 18.0 | 9.0 | 37.0 | 4.0 | 3.0 | 42.0 | 5.0 | 12.0 | 14.0 |
| | 合計 | 635 | 18.0 | 5.0 | 1.0 | 2.0 | 8.0 | 2.0 | 6.0 | 45.0 | 3.0 | 0.0 | 3.0 |
| 大学院 | しっかりとアルバイトをしないと学業継続が難しい | 67 | 4.0 | 5.0 | 30.0 | 4.0 | 39.0 | 0.0 | 8.0 | 46.0 | 4.0 | 30.0 | 5.0 |
| | (学業継続より)小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある | 159 | 6.0 | 3.0 | 30.0 | 3.0 | 36.0 | 0.0 | 6.5 | 49.0 | 3.0 | 20.0 | 5.0 |
| | アルバイトをする必要があまりない | 203 | 4.0 | 2.0 | 35.0 | 3.0 | 40.0 | 0.0 | 0.0 | 48.5 | 3.0 | 30.0 | 4.0 |
| | 社会人学生で収入があるので学業継続に関して経済的支障はない | 35 | 2.0 | 2.0 | 13.5 | 3.0 | 18.5 | 0.0 | 39.0 | 42.0 | 4.0 | 10.0 | 5.0 |
| | 合計 | 464 | 5.0 | 3.0 | 30.0 | 3.0 | 36.0 | 0.0 | 1.0 | 46.0 | 3.0 | 21.0 | 5.0 |
| 合計 | 1099 | 12.0 | 5.0 | 12.0 | 2.0 | 19.0 | 0.0 | 5.0 | 46.0 | 3.0 | 10.0 | 4.0 | |

nは経済状況のもの。各時間のnは欠損値の数が違うためそれぞれ異なる。

上記の分析結果は、真に経済的に困窮している学生への支援の必要性を否定するものではないが、経済状況以外の要因(例えば教育環境や学生本人の意欲)にも留意することの重要性を示唆するものと考えられる。

第9章 アクティブ・ラーナーになることを妨げている原因 (Q38)

「あなた自身が（既になっている人ならば、もっと）『アクティブ・ラーナー』になることを妨げている原因は何ですか。もしその理由が大学として対策を講じ得るものである場合、それはどんな対策ですか。概ね 200 字以内を目安に回答してください」という設問に対して、1091 件の回答があった。以下では、サンプルサイズが小さい専門職学位課程と非正規課程の回答を除いて、学位課程別に代表的な記述を紹介する。

学位課程区分別の Q38 に対する自由記述の特徴語

| 学士 | | 修士 | | 博士 | |
|-----------|------|-----|------|-----|------|
| 思う | .243 | 研究 | .151 | 研究 | .134 |
| 授業 | .220 | 考える | .094 | 学生 | .100 |
| 時間 | .187 | 特に | .090 | 大学 | .095 |
| 自分 | .160 | 感じる | .074 | 社会 | .084 |
| アクティブラーナー | .136 | 社会 | .072 | 必要 | .077 |
| 大学 | .136 | 原因 | .063 | 特に | .077 |
| 勉強 | .130 | 自身 | .055 | 考える | .074 |
| 多い | .130 | 妨げる | .052 | 問題 | .074 |
| 教育 | .114 | 環境 | .047 | 難しい | .069 |
| 学ぶ | .113 | 持つ | .047 | 自身 | .064 |

数値は Jaccard 係数。

第1節 学士課程の回答傾向

学士課程では、「授業」の在り方や「教育」課程に関する様々な不満を指摘する記述が目立った。ただし、「自分」自身の努力が必要だとする回答も少なからず見られた。

学生目線の授業が少ない [.] 中には学生目線で本当にその学問はおもしろいんだろうなと伝えてもらえる授業もあり、そのような授業ばかりだったらもっと意欲も湧いてくると思う (中略) もちろん授業が悪いだけでなく学生側に 1 番原因はあると思う (学部 1 年、文系)

GPA 制度のため良い単位を取ることを意識しすぎている。専攻教育が少ないために進路に直接関係ない授業をとることになり良い成績をとることに躍起になり受動的な勉強をすることになっている。教員の授業が分かりづらい。勉強に対する学生の意識と大学側の意識がずれている。(学部 1 年、理系)

授業数が多すぎます。なぜ 1 年の間に専門教育を受けさせないのか甚だ疑問です。●●学科の時間割を見て、どこに自主学習する時間があるのでしょうか。

(学部2年、医歯薬系)

1年次の時点で教養科目と専門科目、教職過程を履修可能にし、48単位という上限をなくしてほしい。1年次にさらに授業を受けることができたら2年生からの負担が少し緩和し、交換留学も前向きに考えられたと思う。(学部4年、文系)

4年生になっても基幹教育の授業に興味があります。しかし、基幹教育の講義は1、2年生が受講生の大半なので受講するのに抵抗を感じています。ですので高学年や大学院生でも講義を聴講をしやすいような工夫が何かあればいいと思います。(学部4年、理系)

加えて、過密なカリキュラムや通学やアルバイトなどのために「時間」が足りない、あるいは「時間」に関係なく利用できる学習スペースが不足しているという回答も多数見られた。

正直、アルバイトが忙しすぎるというのは理由としてある。だが、これは仕方がないことで、大学とは直接関係ないので、時間を自分で捻出していく必要はあると思う(学部1年、文系)

キャンパス移転の最中につき、勉強、研究、課外活動のための移動で時間と金銭が浪費されている。交通費を工面するためにアルバイトの時間も増やさなくてはならないため、さらに自学に充てる時間が減少している現状がある。(学部2年、理系)

時間的制約が多く自分で勉強する時間を持ちにくい。カリキュラム上分量が多いのは仕方ないが勉強しやすい環境をつくってほしい。(学部3年、医歯薬系)

現在は研究室に配属されたので、24時間研究室で学習などもできるが、できれば図書館も利用したい時があるので、図書館の利用可能時間を伸ばしてほしい。もしくは24時間学習可能(できればエアコンの効く)なスペースを作って欲しい。(学部4年、理系)

第2節 修士課程の回答傾向

修士課程では、「研究」と「社会」との関連を意識させる必要性、学習「環境」が整っていないこと、自由な学習を行う時間的余裕がないこと等を訴える回答が少なからず見られた。

研究すべき社会問題、論文の集め方、調査の仕方、図や表の作り方を学部1, 2年のうちに教えた方が良いと思う。(中略) 希望者だけでも良いから1年次から研究室で活動できる環境があればもっと学術成果があがるのではないかと思う。(修士1年、理系)

研究には広い分野における基礎的な知識が必要だと考えているのですが、その重要性を低学年からもっと知ることが出来るように、早くから論文など専門的な事項に触れる機会があると良いと思います(修士1年、理系)

大学内の通信環境(WiFi等)をもっと充実させてほしい。大学内で夜まで研究することが多いので、学内で夜遅くまでご飯が買えるような施設が欲しいです。(修士1年、文系)

実験室等の環境が不十分であるため。研究室の人数に対して、部屋が十分な広さでなかったり、実験器具の数が不足しているため。(修士1年、理系)

カリキュラムが過密のため、授業や研究だけで精一杯である。(修士2年、医歯薬系)

研究が忙しく学ぶ時間がない。専門教科以外にも興味があるが、卒業単位は既に満たされているので実験を休んで受講しようとは思わない。少しでかまわないので高年次で分野外必修選択科目を作ってもらえると少しは受講しやすいと思う。(修士2年、理系)

第3節 博士課程の回答傾向

博士課程でも、「研究」と「社会」との関連を「学生」自身が意識する重要性を指摘する記述が多かったが、回答者なりの大学教育観に基づいた記述が散見された。なお、大学(院生)に対する社会的な評価の変化や経済的支援を求める声も散見された。

学部教育において、人生をどう生きるべきか、何が人生において必要なものなのか、を学生に考える機会を提供してみても、と思うし、他にも、今社会において何が必要とされているのか?自分の専攻は果たして、社会の中でどういった意義位置付けがあるのか?を学生に考えさせる機会を提供してみてもどうか、と思う。(博士1年、理系)

講義形式の授業を減らしてほしい。低学年時に専門的なことを机上で教えられ

でも、ほぼ身になっていない。学部4年から研究室に配属され、そこで実体験とともに学んだことが、大学で身になった知識の大半を占めている。(博士1年、理系)

大学での講義が「管理されすぎている」ことも考えられるのではないかと思います。(中略) システム上難しい問題ではあるかと思いますが、単位や卒業要件等に縛られず、自分自身の研究関心に基づきあらゆる講義を取捨選択し、そこで与えられた「課題」ではなく、自身の研究につながる問題について自ら考えることができると、より「アクティブラーナー」になることができるように思えます。(博士3年、文系)

私見であるが大学は研究機関であるべきと考える。基礎研究の面白さを学ぶ機会が無く、はやりのテーマで研究し、通過点として大学に在籍するのであれば、アクティブラーナーにはなれないと考える。基礎研究にも十分に予算配分し、継続した研究ができる環境が望まれていると考えられる。(博士3年、理系)

勉学や研究に励みたいが、授業料や研究経費を払えば生活費が足りず、結果貴重な時間をアルバイトに費やす羽目になってしまう。また、世間の博士課程学生に対する評価も「学生の延長線上」と好意的なものではないが、何よりもまず事務員を含む大学自身が、所属している博士課程学生に対して持っている「所詮学生」という認識を改めてほしい。(博士1年、文系)

学習実態に関する緊急調査

ページ 1

これは九州大学の学部・学院に所属する学生を対象としたアンケートです。該当しない方は回答しないようお願いいたします。特に時期を指定していない限り、基本的に今年度の状況について回答してください。記述式の設問では、個人が特定されるような回答は避けてください。

1 * あなたの性別をお答えください。

- 男
- 女

2 * あなたは外国人留学生ですか。

- 日本人学生
- 外国人留学生

3 * あなたは学業を本業とする学生（フルタイム学生）ですか。それとも、職業を持ち働いている社会人学生ですか。

- フルタイム学生
- 社会人学生

4 * 在籍されている区分をお答えください。

- 学士課程
- 修士課程（一貫制博士課程の最初の2年間を含む）
- 専門職学位課程
- 博士課程（一貫制博士課程の最初の2年間を除く）
- その他

5 * 所属する学部・学院等をお答えください。

- 文学部
- 教育学部
- 法学部
- 経済学部
- 理学部
- 医学部
- 歯学部
- 薬学部
- 工学部
- 芸術工学部
- 農学部
- 21世紀プログラム
- 人文科学府
- 地球社会統合科学府／比較社会文化学府
- 人間環境学府

- 法学府
- 法務学府
- 経済学府
- 理学府
- 数理学府
- システム生命科学府
- 医学系学府
- 歯学府
- 薬学府
- 工学府
- 芸術工学府
- システム情報科学府
- 総合理工学府
- 生物資源環境科学府
- 統合新領域学府

6 * あなたの学年をお答えください。

- 1年
- 2年
- 3年
- 4年
- 5年
- 6年
- 留年（標準修了年限を超過）している

7 * あなたが大学・大学院に進学した主な理由は何ですか。以下の中から最も近いものを一つだけ選んでください。

- 学問、研究に打ち込むため
- 良い就職に必要な学歴や資格を得るため
- 良き友人を得て青春をエンジョイするため
- とりあえず進学しておこうと思ったため

8 * 現在所属している学科・専攻等への進学は第一志望でしたか。

- 第一志望だった
- 第二志望以下だった

9 * 現在の課程修了後に希望している進路として最も近いものを選択してください。

- 就職
- 九州大学の大学院に進学
- 日本国内の他大学院に進学
- 海外の大学院に進学
- 未定
- その他

10 * 将来希望する職業は何ですか。

- 大学等の教育・研究職
- 民間企業の研究職
- 民間企業の総合職等
- 公務員
- 教員（大学を除く）

- 専門職（法曹や医療従事者等。「大学等の教育・研究職」を除く。）
- その他（起業、自営業等）

11 * 将来の夢や目標は具体的に定まっていますか。

- あまり考えていない
- どうするか悩んでいる
- ある程度定まっている
- 明確に定まっている

12 * 最も得意な外国語（英語とは限りませんが、留学生の場合は母国語と日本語以外の言語）の運用能力はどの程度ですか。

- 全くできない
- あまりできない
- なんとか日常会話ができる
- 交換留学程度なら挑戦できる
- 大学院留学も挑戦できる

13 * あなたの経済状況について、最も近いものを選択してください。

- しっかりアルバイトをしないと学業継続が難しい
- （学業継続より）小遣い確保のためにアルバイトをする必要がある
- アルバイトをする必要があまりない
- 社会人学生で収入があるので学業継続に関して経済的支障はない

14 * 以下のような学びの姿勢や大学教育に関する見方は、あなたの場合どれくらい当てはまりますか。当てはまる数字を一つずつ選択して下さい。

- 1 = あてはまらない
- 2 = あまりあてはまらない
- 3 = どちらでもない
- 4 = ややあてはまる
- 5 = あてはまる

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|---------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| ○ 将来に向けて今何を学ぶべきかを考えている | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 授業の枠にとらわれない学習をしている | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 自分が知らない世界にも挑戦してみたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 敢えて難しそうなお授業にも挑戦している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 論文、レポート、課題等の質をできるだけ高めたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 最小限の努力で単位をそろえたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 新しいことを一から学ぶのは面倒だ | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 授業の内容と将来やりたいことの間に関連がある | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 学術研究に携わる仕事に就きたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 良い就職ができればそれでよい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 自分の専攻する学問自体が面白いと思う | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 授業以外の経験から多くを学びたいと思う | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| ○ 自分の専攻する学問と社会とのつながり理解できる | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

15 * 授業や論文指導の際に、以下のことをどれくらい教員に期待していますか。当てはまる数字を一つずつ選んでください。

- 1 = 全く期待していない
- 2 = 期待していない
- 3 = どちらとも言えない
- 4 = 期待している
- 5 = とても期待している

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| わかりやすく教えること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学生が主体性を発揮するように考えさせること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学生自身も気付いていない可能性に気付かせること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 研究者よりもよき教育者であること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 教育者よりもよき研究者であること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 研究者としてのロールモデルを示すこと | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学問と実社会との結びつきを教えること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学生との対話の場を持つこと | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学問を究めることの厳しさを教えること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学問を究めることの楽しさ・喜びを教えること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 失敗やつまずきから学ぶことの重要さを教えること | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

16 * 学習に際して各授業のルーブリックを意識していますか。

参考：ルーブリックとは米国で開発された学修評価の作成方法であり、評価水準である「尺度」と、尺度を満たした場合の「特徴の記述」で構成されます。本学でも多くの授業で、複数の評価軸(観点)に対応する評価基準を示した表形式で提供されており、シラバスとともに各科目を履修する上で重要な情報です。

参考：<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/learning/gpa>

- 存在自体を知らなかった
- 知っているがほとんど意識していない
- 多少意識している
- 大いに意識している

17 * 学習計画を立てる際に、所属部局のカリキュラム・マップをどれくらい活用していますか。

参考：<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/curriculum/map/>

- 存在自体を知らなかった
- 知っているがほとんど活用していない
- 多少活用している
- 大いに活用している

ページ 2

18 * 学習計画を立てる際に、所属部局の科目ナンバリングをどれくらい活用していますか。

参考：<https://www.kyushu-u.ac.jp/ja/education/class/learning/numbering/>

- 存在自体を知らない
- 知っているがほとんど活用していない
- 多少活用している
- 大いに活用している

GPA制度は、あなたにとって学業に励むことへの動機付けになっていると思いますか。

- 19 * 全くそう思わない
 そう思わない
 どちらでもない
 そう思う
 とてもそう思う

- 20 * あなた自身は、GPAが低下すると嫌なので難しそうな授業の履修を避けていると思いますか。
 全くそう思わない
 そう思わない
 どちらでもない
 そう思う
 とてもそう思う

ページ 3

- 21 * 学習計画を立てる際に、シラバスをどのように活用していますか。

- あまり活用していない
 もともと履修予定だった授業について確認し学習の参考にする
 様々な授業について積極的に確認し履修計画再考の参考にする

- 22 * 今年度に履修した授業において、次のような授業／先生が何割くらいあった／いたと思いますか。あてはまる割合（数字）を一つずつ択してください。

ただし、システムの都合上、0割の場合は「N/A」を選択してください。絶対に「わからない」の意味で「N/A」を選択しないでください。

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | N/A |
|--|----------------------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 授業の内容や目標等の情報が適切に掲載されているシラバスの割合 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| シラバスやルーブリックで事前に示された基準に沿って成績評価している授業の割合 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 難しくついていくのが大変な授業の割合 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 学生が積極的に参加しなければならない対話型の授業の割合 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 教員から適切な頻度でフィードバックが行われる授業の割合 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 教え方が上手だと思う先生の割合 | <input checked="" type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

- 23 * 九大のカリキュラムや学習環境などについてどのようにお考えですか。以下の中から当てはまる数値を一つずつ選択してください。

- 1 = あてはまらない
 2 = あまりあてはまらない
 3 = どちらでもない
 4 = ややあてはまる
 5 = あてはまる

授業科目の相互の関連に配慮したカリキュラムになっている

| 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

| | | | | | |
|--|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 学生が積極的に参加しなければならない対話型の授業がもっと多い方がよい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| カリキュラムが過密すぎて自由な学習をする時間を持ちにくい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 低年次からもっと専門教育を受けたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 高年次でも教養教育を受けたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| (実務家との交流やインターンシップなど) 社会に触れる機会があれば利用したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 留学や研究を目的とした海外渡航を行いたい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| キャンパスに24時間利用できる学習施設があれば頻繁に利用したい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 同じ授業科目で1週間に複数回授業があるほうが、週に1回だけよりも学びやすい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 4学期制(8週完結型)の授業の方が学びやすい | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

- 24 4学期制(8週完結型)の授業のメリット・デメリット等について、あなた自身が感じていることがあれば教えてください。

ページ 4

- 25 * 九大の教育を評価した場合、以下の各観点について当てはまるもの一つずつ選択してください。学年や所属する課程のため、評価することが難しい場合は「N/A」を選択してください。

- 1 = そう思わない
 2 = あまりそう思わない
 3 = どちらでもない
 4 = ややそう思う
 5 = そう思う

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | N/A |
|------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|-----------------------|
| 教養教育が充実している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 教養教育に知的好奇心を喚起された | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 教養教育に満足している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 専門教育が充実している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 専門教育に知的好奇心を喚起された | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 専門教育に満足している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |
| 九大の教育に全体的に満足している | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> | <input type="radio"/> |

- 26 よろしければ具体的にどんな点を良く評価しているのかを、概ね200字以内を目安に教えてください。

27 よろしければ具体的にどんな点を悪く評価しているのかを、概ね200字以内を目安に教えてください。

ページ 5

以下の設問には、小数点以下を四捨五入した半角の整数（2桁以下）で回答してください。

28 * 授業期間中の典型的な一週間に、授業や（授業としての）実験に出席している時間の合計（週あたり）を教えてください。（例：90分授業を週に10コマ＝15時間/週 → 回答は「15」）

29 * 授業期間中の典型的な一週間に、授業・実験の準備や予習・復習に充てている時間の合計（週あたり）をお答えください。（例：平日は毎日1.5時間＋土日は1時間ずつ＝9.5時間/週 → 回答は「10」）

30 * 授業期間中の典型的な一週間に、研究（学位論文の執筆やそのための資料収集、実験等）に充てている時間の合計（週あたり）をお答えください。（例：平日は毎日3時間＋土日は1時間ずつ＝17時間/週 → 回答は「17」）

31 * 授業期間中の典型的な一週間に、（大学での授業や研究とは直接関係ない）自主的な学習に充てている時間の合計（週あたり）をお答えください。（例：平日は毎日0時間＋土日は2時間ずつ＝4時間/週 → 回答は「4」）

32 * 授業期間中の典型的な一週間に、課外活動に充てている時間の合計（週あたり）をお答えください。（例1：週に3日2.5時間ずつ＝7.5時間/週 → 回答は「8」、例2：課外活動を行っていない → 回答は「0」）

33 * 授業期間中の典型的な一週間に、アルバイトに充てている時間の合計（週当たり）をお答えください。社会人学生の場合は就労時間を回答してください。

（例1：週に2日4時間ずつ＝8時間／週 → 回答は「8」、例2：1回8時間程度の単発の仕事をも月に2回ほど＝4時間／週 → 回答は「4」、例3：アルバイトを特にしていない → 回答は「0」）

34 * 授業期間中の典型的な一週間に、睡眠に充てている時間の合計（週当たり）をお答えください。（例：毎日約6.5時間＝45.5時間／週 → 回答は「46」）

35 * 授業期間中の典型的な一週間に、通学（往復）にかかっている時間の合計（週当たり）をお答えください。（例：片道30分（往復1時間）×週5回通学＝5時間／週 → 回答は「5」）

36 * 夏休み・冬休み・春休み中の典型的な一週間に、研究（学位論文の執筆やそのための資料収集、実験等）に充てている時間の合計（週当たり）をお答えください。（例：週に2日5時間ずつ＝10時間／週 → 回答は「10」）

37 * 夏休み・冬休み・春休み中の典型的な一週間に、（大学での授業や研究とは直接関係ない）自主的な学習に充てている時間の合計（週当たり）をお答えください。（例：毎日2時間ずつ＝10時間／週 → 回答は「10」）

ページ 6

38 * ここまでアンケートにご協力いただきありがとうございました。次が最後の質問です。

あなた自身が（既になっている人ならば、もっと）「アクティブ・ラーナー」になることを妨げている原因は何ですか。もしその理由が大学として対策を講じ得るものである場合、それはどんな対策ですか。概ね200字以内を目安に回答してください。個人を特定するような記述はしないでください。

参考：「アクティブ・ラーナー」とは「学び続けることを幹に持つ、未知な問題や状況にも果敢に挑戦するスピリットと行動力を備えた人」を意味します。九州大学は「アクティブ・ラーナー」の養成に取り組んでいます。（<http://www.artsci.kyushu-u.ac.jp/faculty/>）